

摺議員諸君連日の勞を謝する爲、聊か今夕小宴を開きしに、斯く御來會ありしは光榮とする所であると、一應切口上の辭があつて、それからこの宴會に就いて川上一流の説明を仕るとあり、一座覺えず耳を傾けた。知事は咳一咳して云く、本席を設くるに當り、何か面白い趣向をもと考へた。美酒嘉肴乃至美形と云ふ類は諸君が近頃連日若しくは連夜で既に御饜きになつて居るから今更でもあるまい。何かと考へた末思ひ付いたこともあつたが、是れも仔細あつて致し方なく止めた。尙種々と考へたが、縣の生産調査(今回の豫算編制に當りて知事が縣の生産調査を行つたことを指す)が短時日の爲に不結果に終りし如く、此方の考案も不結果に終りしは如何にも残念至極であると、所謂一流の説明とは要領を得た様な得ない様な、宴會設備の申譯である。眞面目な知事の口から美形など、云ふ艶つばい言葉も出たので、クス／＼と笑聲も起つたが、最後の結びが如何にも面白い。云く、尙判らぬ處があつて、質問が出ましたら、私は快暢な辯を以て不得要領なお答を致しますとの知事の大愛嬌には、平生苦虫を噛み潰した様な顔をしてゐる議員も、噴き出すには居られなかつた。此の開會の挨拶が大拍手の裡に終ると、大橋議長の謝辭現知事の本縣に來任せられた當時は非常に危険な人(知事が前任警視廳時代に日比谷燒打事件に蠻勇を振ひしことを指す)の様にも思つてゐた向きもある。知事と面會する

員 議



岡部長左衛門



武田久作



富賀見欽十郎



百谷傳兵衛

議 員



島本正孝



齊藤宗平



矢木安一



岩田大中

には武装して掛らねばならぬと云ふ人もあつた位、我々も噂の通りであれば至極迷惑の次第と内實は思はぬでもなかつたが、親しく其の人に接し、其の施政を見るに、如何にも眞面目で、言行に表裏なく、縣民に親切である。冀くは今後も斯くありたい。我々も此の眞面目な知事を頂いて居る以上は眞面目に其の職を盡し、八十萬縣民の委託に背かぬ様に遣りたい。近來政府でも、政黨でも眞面目を缺いて居るが、我が富山縣では上下共に眞面目に其の職を盡し、縣民の福利を増進して行きたいと思ふと、始めは一應の挨拶と云ふ積りであつたらうが、思はず話が進んだらしい。一言は一言より熱誠に、一句は一句より眞摯で、一座森として静まり返つた。議長も話が理に落ち過ぎたと氣附いたか、酒席で理窟話をして思はず興を殺いだのは如何にも氣の毒と謝して復席した。

六八、明治四十一年九月臨時縣會

本會は明治四十一年九月二十四日開會、翌二十五日閉會した。議長は大橋十右衛門、議員席次は前會に同じく、知事は宇佐美勝夫であつた。明年北陸へ行啓あらせらるゝ皇太子殿下の奉迎設備に關する豫算を決議したものである。

閉 閉

議 件

議事件名

議事件名は明治四十一年度歳入歳出追加豫算 自明治四十一年度縣會議事堂建築費繼續年期及支出方法變更 縣有不動産處分 議及二件であつた。

議 決 摘 要

追加豫算

(1) 明治四十一年度歳入歳出追加豫算

歳入 經常部

地 租 割 金七萬九千六百參拾壹圓六拾八錢七厘

但郡市收入本年度地租豫算高金七拾九萬六千參百拾六圓八拾七錢地租壹圓ニ付金拾錢

戶 數 割 金四萬千八百參拾九圓九拾貳錢

但郡市收入本年度總戶數十一萬六千二百二十二戶戶數一戶ニ付金參拾六錢

家 屋 稅 金六千貳百八拾圓四拾壹錢八厘

但富山市家屋坪數二十六萬二千二百二十三坪此個數一億百四十五萬四千七百四十

個一個ニ付四米此金四千五拾八圓拾九錢高岡市家屋坪數十七萬三千九百十三坪此個數六千七百三十四萬二百三十七個一個ニ付三米三忽此金貳千貳百貳拾貳圓貳拾貳錢八厘

國 庫 下 渡 金 金貳千四百拾七圓

經常部合計金拾參萬百六拾九圓貳錢五厘

歳入 臨時部

財 產 賣 却 代 金 參千圓

寄 附 金 金貳千貳百圓

臨時部合計金五千貳百圓

歳入總計金拾參萬五千參百六拾九圓貳錢五厘

但郡市收入

歳出 經常部

土 木 費 金貳萬四百六拾五圓

教 育 費 金八千九拾七圓

縣 稅 取 扱 費 金千九百五拾九圓貳錢五厘

議事堂費繼續方法變更

縣廳舍修繕費	金參千七百四拾七圓
統計費	金千圓
豫備費	金貳萬五千百九拾圓
經常部合計金六萬五百五拾八圓貳錢五厘	
歲出臨時部	
警察廳舍建築費	金壹萬四千五百圓
土木費	金貳萬九千五百五拾七圓
郡市町村土木補助費	金六百九拾壹圓
教育費	金參千貳百六拾五圓
縣會議事堂建築費本年度支出額	金貳萬六千四百六拾六圓
縣廳舍建築費	金七百參拾貳圓
臨時部合計金七萬四千八百拾壹圓	
歲出總計金拾參萬五千參百六拾九圓貳錢五厘	
全部郡市負擔	

(2) 自明治四十一年度縣會議事堂建築費繼續年期及支出方法變更
至明治四十二年度

不動産處分

議及

總豫算高	既定豫算高	變更豫算高
明治四十一年度支出額	金九萬六千七百六拾圓	金拾貳萬參千貳百貳拾六圓
一、無變更の年度に係るものは省略	金四萬六千六百八拾六圓	金七萬參千五百五拾貳圓

(3) 縣有不動産處分

高岡警察署現在縣有の土地建物(今の高岡市商品陳列所)を金參千圓にて高岡市に拂下ぐる件は可決。

(4) 議及(二件)

(一) 明治四十一年度歲出追加豫算豫備費は、本會提案以外、新に行啓御指定地に就き一ヶ所約四千圓の範圍に於て必要の設備を爲し、内五千百九拾圓は全般の豫備費に充つる見込を以て修正したるに依り、本款の支出を要する場合は、案を具し參事會に附議し、官民一致遺憾なく奉迎の至誠を表明せしめられんことを望む。

(二) 高岡警察署現在縣有の土地建物拂下の件は、公益上特別の理由に依るを以て、將來若し高岡市に於て、物産陳列所以外他に使用する場合は、土地並に地上の建築物を在形の儘金參千圓を以て、縣に買上ぐるの條件を付せられんことを望む。

特殊事項

敬虔なる議事

第一日午後議員一同は議場の中央に椅子を集めて、協議會を開き、宇佐美知事は提出せし追加豫算編成の方針を説明し、次いで高岡警察署の土地建物拂下の件、同警察署新築の件、師範學校道路新設の件等に就いて説明し、尙越中史編纂及び縣會議事堂工事の進行に就いて述ぶる所あり、第二日午前にも協議會を開くこと三十分、政進兩派より各三名の委員を擧ぐることにし、政派は川瀬、川崎、岩田、進派は齊藤、石黒、濱田の各議員を選び、議案の修正及び議及の決議を爲して、愈、本會議に入るや、全員出席、原案に對して豫備費金七千六百九拾圓を増加し、之に關聯する徵稅費をも増額して、他は悉く原案を通過した。之れが採決に際しては、黨派の異同を問はず、全會一致、敬虔なる態度を以てし、開議時間は初日五分間、次日十分間合せて十五分間にて、金拾參萬餘圓の豫算を可決したのは、實に空前のことであつた。

六九、明治四十一年十一月通常縣會

開閉

本會は明治四十一年十一月十六日開會、同十二月十五日閉會した。議長は大橋十右衛門で、會期の最終日に森丘覺平之に代り、知事は宇佐美勝夫決議せし翌年度通常豫算總額は金百參拾七萬貳千八百拾五圓であつた。

議事件

議事件名は明治四十二年度歳入歳出豫算 同上歳入歳出追加豫算二件 同上特別會計歳入歳出豫算十九件 明治四十一年度歳入歳出追加豫算二件 自明治四十四年度教育費中高岡高等女學校建築費繼續年期及支出方法變更 自明治四十三年度勸業費中第十回(愛知縣主催)關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法 自明治四十二年度土木費繼續年期及支出方法 自明治四十二年度教育費中新設中學校建築費繼續年期及支出方法 自明治四十三年度業稅雜種稅課目課額中改正 明治四十年度歳入歳出決算報告 諮問二件 議及十三件 建議六件 議長の選舉 前議長に感謝狀を贈る件であつた。

議決摘要

(1) 明治四十二年度歲入歲出豫算

歲入	經常部	地租	金七拾四萬參千六百貳拾四圓八拾七錢八厘
郡市收入	郡市收入	郡市收入	金四萬六千八百貳拾四圓八拾七錢八厘
但本年度地租豫算高金八拾萬圓(內金六千參百五拾八圓、富山市高岡市)地租壹圓=付市金八拾七錢壹厘、町村金九拾參錢	郡市收入	郡市收入	金六拾九萬六千八百圓
營業稅	營業稅	營業稅	金四萬千六百拾圓貳拾錢
營業稅附加稅	營業稅附加稅	營業稅附加稅	金拾貳萬參千參百貳拾九圓參拾八錢
但國稅金拾貳萬七千圓ノ十分ノ二・五	營業稅附加稅	營業稅附加稅	金參萬千七百五拾圓
礦業稅附加稅	礦業稅附加稅	礦業稅附加稅	金四百拾壹圓六拾錢
但國稅金四千百拾六圓ノ十分ノ一	礦業稅附加稅	礦業稅附加稅	金九千六百八圓
所得稅附加稅	所得稅附加稅	所得稅附加稅	金九千六百八圓

戶數	戶數	戶數	但國稅金九萬六千八拾圓ノ十分ノ一
郡市收入	郡市收入	郡市收入	金貳拾壹萬貳千四百貳拾壹圓參拾錢
但本年度總戶數十一萬四千二百五戶、戶數一戶=付町村壹圓八拾六錢	郡市收入	郡市收入	金壹萬參千四百七拾六圓拾九錢
家屋稅	家屋稅	家屋稅	金拾九萬八千九百四拾五圓拾壹錢
但富山市家屋坪數二十六萬二千九百二十一坪、此個數一億百八十四萬二千二百二十五個、一個=付壹毛九七此金貳萬六拾貳圓九拾壹錢九厘	家屋稅	家屋稅	金參萬九百六拾壹圓七拾七錢
高岡市家屋坪數十七萬五千四百三十三坪、此個數六千八百一十一萬七千八百二十個、一個=付壹毛六此金壹萬八百九拾八圓八拾五錢壹厘	家屋稅	家屋稅	金參萬九百六拾壹圓七拾七錢
財產收入	財產收入	財產收入	金六百拾九圓
郡市收入	郡市收入	郡市收入	金壹圓
內	內	內	金六百拾八圓
國庫下渡金	國庫下渡金	國庫下渡金	金參萬六百五拾八圓
河川收入	河川收入	河川收入	金千百五圓

雜	收	入	金九萬千五百八拾七圓五拾六錢五厘
內	郡	收	入 金百七拾五圓九拾六錢
內	郡	收	入 金九萬千四百拾壹圓六拾錢五厘
內	郡	收	入 金六萬四千四百七拾八圓貳錢八厘
內	郡	收	入 金百貳拾五萬六千七百五拾八圓六拾六錢五厘
內	郡	收	入 金八千四百八拾六圓參拾錢七厘
內	郡	收	入 金參百五拾四圓九拾七錢貳厘
內	郡	收	入 金八千百參拾壹圓參拾參錢五厘
內	郡	收	入 金參萬八千五百圓
內	郡	收	入 金八百八拾七圓
內	郡	收	入 金壹圓
內	郡	收	入 金八百八拾六圓
公債	證	書	償還金 金百圓

寄	附	金	金八千圓
內	郡	收	入 金參百五拾五圓九拾七錢貳厘
內	郡	收	入 金五萬五千貳百貳拾貳圓參拾參錢五厘
內	郡	收	入 金六萬八百參拾四圓
內	郡	收	入 金百參拾壹萬千九百八拾壹圓
歲	入	總計	金百參拾七萬貳千八百拾五圓
警	察	費	金拾七萬千貳百參拾六圓
警	察	廳	舍修繕費 金千五百參拾貳圓
土	木	費	金拾五萬千貳百八拾六圓
縣	會	議	諸費 金參萬九百九拾壹圓
衛	生	及	檢微費 金壹萬千四拾六圓
教	育	費	金拾九萬貳千貳百九拾圓

郡廳舍修繕費	金千百圓
郡役所費	金五萬八千五百五拾九圓
救育費	金貳百七拾四圓
諸達書及揭示諸費	金千四百貳拾六圓
勸業費	金拾四萬貳千七百七拾貳圓
縣稅取扱費	金貳萬貳千貳百五拾參圓拾六錢
縣廳舍修繕費	金千六百拾圓
衆議院議員選舉費	金百五拾圓
縣吏員費	金四萬五千七百九拾壹圓
縣會議員選舉費	金百圓
行政執行費	金五拾圓
財產費	金參百四拾九圓
收用審査會費	金八拾參圓
統計費	金八百九拾九圓
神社費	金百參拾圓

豫備費	金壹萬參千圓
內郡負擔	金千圓
內郡市負擔	金壹萬貳千圓
經常部合計金	八拾四萬六千五百貳拾七圓拾六錢
內郡負擔	金六萬貳百五拾九圓
內郡市負擔	金七拾八萬六千貳百六拾八圓拾六錢
臨時部	
警察廳舍建築費	金壹萬千六百六圓
土木費	金六萬四千九百貳拾九圓
郡市町村土木補助費	金貳萬六千八百九拾六圓
市町村傳染病豫防補助費	金千六百四拾九圓
教育費	金參萬參千六百參拾九圓
教育補助費	金壹萬千四百七拾四圓
勸業補助費	金壹萬貳千貳拾圓
勸業補助費	金四萬八千八百圓

郡廳舍建築費	金五百七拾五圓
縣債費	金五萬貳千貳百七拾七圓
衛生補助費	金七百九拾六圓
慈善事業補助費	金四百圓
小學校教員恩給金補充費	金七千五百七拾八圓
市町村教育補助費	金貳千圓
縣會議事堂建築費本年度支出額	金五萬七拾四圓
勸業費本年度支出額	金壹萬貳千參百九拾九圓參拾四錢
土木費本年度支出額	金七萬六千六百拾七圓五拾錢
教育費本年度支出額	金九萬千參百拾六圓
感化院補助費	金四千圓
縣會議諸費	金壹萬貳千五百六圓
縣廳舍建築費	金四千七百參拾六圓
臨時部合計金五拾貳萬六千貳百八拾七圓八拾四錢	
內 郡 負 擔	金五百七拾五圓

追加豫算

一は原案可決、一は修正可決したものであるが、共に通常豫算に合併せられたから記載を省略する。

特別會計豫算

郡市負擔	金五拾貳萬五千七百拾貳圓八拾四錢	
歲出總計金百參拾七萬貳千八百拾五圓		
內 郡 負 擔	金六萬八百參拾四圓	
內 郡 市 負 擔	金百參拾壹萬千九百八拾壹圓	
(2) 明治四十二年度歲入歲出追加豫算(二件)		
一は原案可決、一は修正可決したものであるが、共に通常豫算に合併せられたから記載を省略する。		
(3) 明治四十二年度特別會計歲入歲出豫算(十九件)		
罹災救助基金	金五萬四千七百八拾貳圓五錢九厘	入
慈善救濟資金	金千九百五拾六圓拾貳錢九厘	歲入ニ同ジ
水災基金	金參百圓五拾五錢七厘	同
衛生基金	金百六拾四圓貳拾錢九厘	同
教育資金	金壹萬九千九百拾八圓	同
市町村立小學校教員加俸資金	金四萬貳千參百五拾七圓	同

小學校教員恩給基金	金貳千四百貳拾參圓	同
小學校教員恩給金	金壹萬參百六拾參圓	同
富山縣師範學校基本財產	金貳百四拾圓	同
縣立富山中學校基本財產	金貳百九拾七圓	同
縣立高岡中學校基本財產	金貳百九拾壹圓	同
縣立魚津中學校基本財產	金百六拾九圓	同
縣立礪波中學校基本財產	金百九圓	同
縣立富山高等女學校基本財產	金參百參拾七圓	同
縣立高岡高等女學校基本財產	金貳百四拾貳圓	同
縣立工藝學校基本財產	金貳千四百貳拾八圓	同
縣立農學校基本財產	金八百拾七圓	同
縣立藥業學校基本財產	金八圓	同
縣立蠶業學校基本財產	金四百貳拾七圓	同
(4) 明治四十一年度歲入歲出追加豫算		
歲入經常部		

追加豫算

地 租 割 金拾萬九千八百九拾壹圓七拾貳錢八厘

但郡市收入

本年度地租豫算高金七拾九萬六千參百拾六圓八拾七錢地租壹圓二付金拾參錢八厘

戶 割 金壹萬參千四百八拾壹圓七拾五錢貳厘

但郡市收入

本年度總戶數十一萬六千二百二十二戶一戶二付金拾壹錢六厘

家 屋 稅 金貳千五拾九圓六拾五錢五厘

但富山市家屋坪數二十六萬二千二百二十三坪此個數一億百四十五萬四千七百四十一個一個二付壹米參忽此金千參百拾八圓九拾壹錢貳厘高岡市家屋坪數十七萬三千九百十三坪此個數六千七百三十四萬二百三十七個一個二付壹米壹忽此金七百四拾圓七拾四錢參厘

國 庫 下 渡 金 金七百七拾五圓

經常部合計金拾貳萬六千貳百八拾參錢五厘

歲入臨時部

線 越 金 金七百八拾貳圓貳拾六錢七厘

國庫補助金 金貳百七圓

臨時部合計金九百八拾九圓貳拾六錢七厘

歲入總計金拾貳萬七千九拾七圓四拾錢貳厘

歲出經常部

土木費 金參萬貳千四百五拾五圓

勸業費 金四百參拾壹圓

縣稅取扱費 金六百參拾七圓拾參錢五厘

經常部合計金參萬參千五百貳拾參圓拾參錢五厘

歲出臨時部

警察廳舍建築費 金四千六百五拾四圓

土木費 金八萬四千七百九拾五圓

郡市町村土木補助費 金貳千六百八拾圓

勸業費 金七百貳拾七圓

衛生費 金四百拾四圓

臨時部合計金九萬參千貳百七拾圓

追加豫算

歲出總計金拾貳萬六千七百九拾參圓拾參錢五厘

歲入出差引殘金四百四圓貳拾六錢七厘ハ別途議決ノ明治四十一年度歲入出追加豫算歲入不足金ニ充ツ

(5) 明治四十一年度歲入歲出追加豫算

歲入經常部

地租 金壹萬八千參百拾五圓貳拾八錢八厘

但郡市收入

本年度地租豫算高金七拾九萬六千參百拾六圓八拾七錢、地租壹圓ニ付金貳錢參厘

戶數 割 金六千貳百七拾五圓九拾八錢八厘

但郡市收入

本年度總戶數十一萬六千二百二十二戶、一戶ニ付金五錢四厘

家屋稅 金九百參拾壹圓九拾六錢壹厘

但富山市家屋坪數二十六萬二千二百二十三坪、此個數一億百四十五萬四千七百四十一個、一個ニ付六忽此金六百八圓七拾貳錢八厘

高岡市家屋坪數十七萬三千九百十三坪、此個數六千七百三十四萬二千三百三十七個、一個

二付四忽八微此金參百貳拾參圓貳拾參錢參厘
歲入總計金貳萬五千五百貳拾參圓貳拾參錢七厘

歲出 經常部 金貳百九拾參圓五拾錢四厘
縣 稅 取 扱 費 金貳百九拾參圓五拾錢四厘

歲出 臨時部 金貳萬五千貳拾九圓
土 木 費 金六百萬五圓

郡市町村土木補助費 金六百萬五圓
臨時部合計金貳萬五千六百參拾四圓

歲出總計金貳萬五千九百貳拾七圓五拾錢四厘
歲入不足金四百四圓貳拾六錢七厘ハ別途議決ノ明治四十一年度歲入出追加豫算歲入超過金ヲ以テ之ニ充ツ

教育費繼續方法變更

(6) 自明治四十年年度教育費中高岡高等女學校建築費繼續年期及支出方法變更至明治四十三年年度
總 豫 算 高 既 定 豫 算 高 變 更 豫 算 高
明治四十二年度支出額 金七萬七千貳百六拾七圓 金九萬九千九百五拾九圓
金貳萬四千參百貳拾六圓 金參萬九千拾八圓

勸業費繼續方法

一、無變更の年度に係るものは省略。
(7) 自明治四十二年年度勸業費中第十回(愛知縣主催)關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法
一金壹萬貳千六百七拾貳圓 總 豫 算 高
內 譯

金八千四百五拾貳圓 明治四十二年度支出額

金四千貳百貳拾圓 明治四十三年度支出額

土木費繼續方法

(8) 自明治四十二年年度土木費繼續年期及支出方法至明治四十三年年度
一金拾萬九千九百拾六圓 總 豫 算 高
內 譯

金參萬圓 明治四十二年度支出額

金七萬九千九百拾六圓 明治四十三年度支出額

教育費繼續方法

一、本表の内容は道路橋梁費金拾萬千貳拾六圓、測量費金八千七百九拾圓である。
(9) 自明治四十二年年度教育費中新設中學校建築費繼續年期及支出方法至明治四十五年年度
一金九萬九千五百五拾壹圓 總 豫 算 高
第三篇 縣會史 上 九一七

内 譯

金貳萬七千貳百九拾八圓	明治四十二年度支出額
金貳萬五千五百貳圓	明治四十三年度支出額
金貳萬貳千參百四拾六圓	明治四十四年度支出額
金貳萬八千四百五圓	明治四十五年度支出額
(10) 自明治四十二年 至明治四十三年 度教育費中藥業學校建築費繼續 年期及支出方法	總 豫 算 高
一金四萬九千貳百四拾圓	

教育費繼續
方法

内 譯

金貳萬五千圓	明治四十二年度支出額
金貳萬四千貳百四拾圓	明治四十三年度支出額

(11) 諮問(二件)

左の二件は何れも可決。

- (一) 伏木停車場ヨリ伏木町中央ニ通ズル道路ハ急遽之レガ新設ノ必要アルニ依リ明治四十一年度ニ於テ總金額六千圓以内ヲ以テ實施セントス
但本件金額ハ明治四十一年度豫備費ヨリ支出スルモノトス

諮問

議 及

- (二) 富山縣立藥業學校ヲ明治四十三年度ニ於テ其程度ヲ高メ專門學校ニ其組織ヲ變更セントス

(12) 議及(十三件)

- (一) 富山市選出縣會議員歳費の件、(二) 米穀検査監督員旅費の件、(三) 明治四十二年度郡市町村土木補助費の件二件、(四) 同年度勸業補助費の件三件、(五) 共同生糸揚返し補助金の件、(六) 停車場道路の件二件、(七) 有澤橋架換の件、(八) 黒部川架橋の件、(九) 縣立藥業學校藥草栽培設備の件に關し議及する所があつた。

(13) 建議(六件)

- (一) 東岩瀬港浚渫の件、(二) 明治三十七年縣令第五十三號改正の件、(三) 富山以東高等女學校新設の件、(四) 森林學校設立の件、(五) 簡易農學校補助の件、(六) 藝妓屋稅及流材稅中新稅賦課の件を建議した。

(14) 議長の選舉

十二月十五日の最終日閉會間近く、大橋議長は都合に依つて辭職する旨を述べて自席に歸り、野崎副議長議長席に着くや、佐々木四番は動議を提出して「謹厚なる議長に對して感謝狀を贈りては如何」と述べしに、滿場拍手して同意を表し、且文案は議長に一任す

建 議

議長交迭

ることにした。此の時永井參與員は直ちに後任を選舉ありたしと告げ、石黒二十一番の發議にて投票選舉とし、副議長の指名にて立會人二名を定めた。開票の結果は左の通りである。

〔議長〕

森 丘 覺 平

十七票(當選)

根尾宗四郎

一票

白票 十一票

議長と記せしもの 一票

前議長に感謝狀贈呈

(15) 前議長に感謝狀を贈る件

本會の最終日に於て、當日議長を辭したる大橋十右衛門に對し、感謝狀を贈ることにしたるを以て、新議長は翌年一月四日左の通り之を贈呈した。

感謝狀

全會一致ノ決議ニ依リ茲ニ謹ミテ前縣會議長大橋十右衛門君ニ感謝狀ヲ呈ス惟フニ君ハ學深ク徳高ク夙ニ經世ノ志ニ厚フシテ衆望ヲ負フヤ淺カラス此ヲ以テ去ル三十二年縣會ニ列セラル、ヤ衆員君ヲ推シテ議長ト爲シ選ニ當ルコト二回職ヲ襲クコト六年ノ久シキニ及フ其間職務ヲ見ル誠忠ニ議事ヲ處スル公正ニ常ニ雅量ヲ示シテ議員ヲ統フ而シテ其功勞多大一々僕指スルニ追アラスト雖モ其重ナルモノヲ學クレハ縣債整理ノ如キ米穀検査創設ノ如キ高岡高等女學校藥業學校礪波中學校及商船學校

新設ノ如キ白岩川改修ノ如キ兵營道路及ヒ海老坂道路新開ノ如キ皆君カ指導ノ下ニ成功シタル案件ナリ殊ニ三十七八年ノ戰役以來或ハ戰時ノ經營ニ或ハ戰後ノ施設ニ世運ニ應スル要務交モ起リ之カ解決頗ル至難ナリシト雖モ君ハ大局ニ鑑ミ緩急ヲ察シ善ク統理シ善ク裁斷シ以テ縣會ヲシテ適切ノ決議ヲ爲サシメ公利公益ノ計畫利用厚生ノ設備一トシテ遺算ナキヲ得セシメタリ近時教育勸業衛生及ヒ交通等諸般ノ縣治着々緒ニ就クヲ見ルハ君ノ力與ツテ多キニ因ラスンハアラス其辛勞ノ大ナル其功績ノ著シキ前代稀ニ見ル所ナリ斯ノ如キハ言ニ誦詐ナク行ニ術略ナク信義誠實以テ克ク議員ノ同情信認ヲ得タルニ因レリ且ツ夫レ公會ニ臨ンテハ議權ヲ尊ヒ言論ヲ重ンシ多數ニ偏セス少數ヲ輕ンセス私席ニ退クモ政派ノ別ヲ以テ城府ヲ設ケス温顔春ヲ湛ヘテ人ニ接スルヤ懇到ヲ極ム是ヲ以テ名望内ニ充チ聲譽外ニ溢ル我カ縣會ハ君ノ如キ議長ヲ得タルヲ光榮トシ主義ノ差別ナク黨派ノ異同ナク永ク留職セラレンコトヲ望ミタルニ何ソ料ラン四十一年ノ縣會終了ニ際シ卒然トシテ其職ヲ辭セラレントハ是レ一同ノ等シク遺憾トスル所ナリ然レトモ君ノ決意牢トシテ固ク又初志ヲ翻スニ由ナシ茲ニ至リテハ君ノ徳望ヲ懷ヒ更ニ敬慕ヲ禁スル能ハサルモノアリ豈ニ君ノ功績ニ對シ感謝セスシテ可ナランヤ君今ヤ議長ヲ退クモ公人トシテハ依然議員ノ

要職ヲ帶ヒ先輩ノ禮ヲ以テ同列ヨリ信認セラレ私人トシテ光輝アル閱歷勳績ニ依リ
宿老ノ遇ヲ以テ縣民ヨリ崇敬セラレ地位益々重要ナリ希クハ加餐自重縣下ノ爲メ更
ニ盡瘁セラレンコトヲ

明治四十二年一月四日

富山縣會議長 森 丘 覺 平

特 殊 事 項

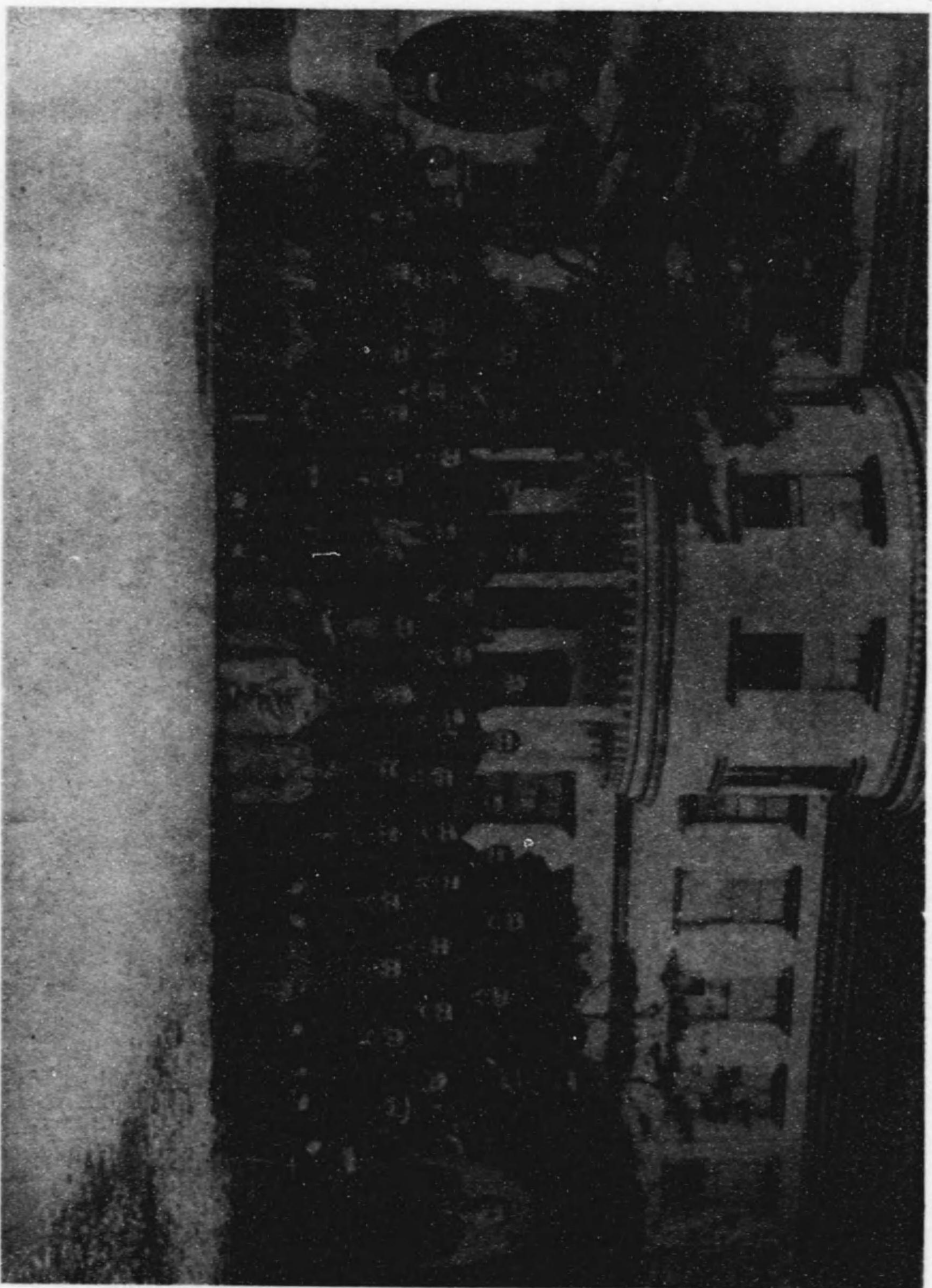
痛烈なる質
問

(1) 笹津橋買上の質問

土木費一讀會に於て、幾年の後には無償を以て縣の所有に歸すべき賃取の笹津橋を、當
局が參事會代決にて買上げたる件に關し、佐々木四番は三度まで疊みかけて痛烈なる質
問を發し、畢竟縣會を召集するも、參事會を召集するも、事實の上に差異なきに拘はらず、此
の舉に出でしは、縣會を侮蔑したものである。これは當局の信任をも問ふべき問題なれ
ども、我々は少數黨なるが故に、涙を吞んで質問に止むるのである。當局は男らしく縣會
に陳謝すべきであると肉迫し、川崎十二番亦續いて之を責めた。之に對する永井參與員
の答辯は平生の達辯に似ず、甚だ苦しさうであつたが、事なく問題が收まつた。

大演習等陪
列者

(2) 大宴會の陪列者



員 議 會 縣 月九年十四 治明自
月九年十四 治明至

閉
閉

議事件名

十一月十四日 大元帥陛下には、奈良停車場附近町外れの田圃に於て、陸軍大演習の閱兵式を行はせられ、同日午後奈良公園に於て大宴會を開かせ給うた。當日本縣より陪列したるは、宇佐美知事、淺野貴族院議員、伊東牧野、岡崎西能、神保各衆議院議員、大橋野崎縣會正、副議長及び藍綬章佩用者藤井能三外數名で、何れも天顏を拜するの光榮を得た。

七〇、明治四十二年七月臨時縣會

本會は明治四十二年七月七日開會、同月九日閉會した。議長は森丘覺平、議員席次は前會に同じく、知事は宇佐美勝夫で、主として東宮行啓に關する豫算を決議した。

議 件

議事件名は明治四十二年度歳出變更豫算 同上歳入歳出追加豫算 自明治四十二年
至明治五十一年度
勸業費中行啓記念樹苗圃費繼續年期及支出方法 縣會々議規則の修正 皇太子殿下頌
徳表の奉呈であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治四十二年歲出變更豫算

追加豫算

歲出經常部
 既定豫算高
 變更豫算高
 豫備費 金參萬貳千貳百四拾七圓四拾七錢四厘 金壹萬九千貳百四拾七圓四拾七錢四厘
 但郡負擔金千圓、郡市負擔金壹萬八千貳百四拾七圓四拾七錢四厘である。
 (2) 明治四十二年歲入歲出追加豫算
 歲入經常部
 戶數 割 金壹萬八千貳百拾圓八拾八錢
 但本年度總戶數十一萬三千八百十八戶、一戶ニ付金拾六錢
 但郡市收入
 家屋稅 金貳千九百拾四圓九拾五錢
 但富山市總個數一億五百七十二萬四千九百九十個、一個ニ付壹糸八壹此金千九百拾參圓六拾貳錢
 高岡市總個數六千八百一十一萬七千八百二十個、一個ニ付壹糸四七此金千壹圓參拾參錢

國庫下渡金 金六拾參圓

雜收入 金五百貳拾圓

經常部合計金貳萬千七百八圓八拾參錢

但郡市收入

歲入臨時部

繰越金 金貳萬八千七拾圓拾七錢

但郡市收入

歲入總計金四萬九千七百七拾九圓

但歲入不足金壹萬參千圓ハ別途ノ變更豫算ヨリ生スル歲入超過金ヲ以テ之ニ充ツ

歲出經常部

土木費 金八千四百四拾參圓

縣會議諸費 金壹萬參千九百六拾圓

衛生及檢徵費 金九百九拾貳圓

教育費 金八千貳百六拾圓

勸業費 金五百貳拾九圓

縣稅取扱費	金八百五拾圓
縣廳舎修繕費	金四百六拾九圓
統計費	金參千九百八圓
經常部合計金參萬七千四百拾壹圓	
歲出臨時部	
警察廳舎建築費	金參百七拾六圓
土木費	金四千四拾貳圓
郡市町村土木補助費	金七百貳拾八圓
教育費	金參百貳拾參圓
勸業費	金參千貳百八圓
勸業費本年度支出額	金貳千五百拾圓
縣會議諸費	金四千貳百拾七圓
縣廳舎建築費	金千參拾四圓
鐵道補助費	金八千九百參拾圓
臨時部合計金貳萬五千參百六拾八圓	

勸業費繼續方法

歲出總計金六萬貳千七百七拾九圓

但郡市負擔

(3) 自明治四十二年度勸業費中行政記念樹苗圃費繼續年期及支出方法
 至明治五十一年度
 一金八萬七千百圓

內譯

總豫算高

金貳千五百拾圓	明治四十二年度支出額
金八千五百貳拾圓	明治四十三年度支出額
金壹萬百四拾六圓	自明治四十四年度各年度支出額 至明治四十九年度
金八千五百四拾六圓	明治五十年年度支出額
金六千六百四拾八圓	明治五十一年度支出額

會議規則修正

(4) 縣會々議規則の修正

縣會議事堂は建築も已に竣工を告げたるを以て會議規則を修正するの必要ありとて、其の修正を議長に一任し來るべき通常縣會までに内務大臣の認可を得ることに決した。

頌德表

(5) 皇太子殿下頌德表の奉呈

大橋十七番の發議に依り、滿場一致を以て、東宮行啓の際縣會が八十萬縣民に代り、至誠

敬虔頌徳表を上ることとした。而して文案の起草は慎重を要する爲、議長を加へて五名の委員を選ぶこととし、議長より、大橋十右衛門、根尾宗四郎、金武央佐、木平兵衛の四名を指名した。

特殊事項

謹肅可決

謹肅裡可決

今回の議案は、總て、東宮行啓に關する豫算であつた爲、議事大に謹肅を極め、第二日に於て特に秘密協議會を開き、知事の説明に依り議案が十分議員に了解せられ、第三日に於て議長は議場に諮りて議案全部を議題に供し、讀會省略の上、滿場一の質問もなく、可決せられた。

七一、明治四十二年十一月通常縣會

閉會

本會は明治四十二年十一月二十二日開會、同十二月二十一日閉會した。議長は會期の最終日に森丘覺平辭して根尾宗四郎之に代り、議員席次は前會に同じく、知事は宇佐美勝夫で、決定せし翌年度通常豫算總額は金百貳拾七萬七千九百七拾九圓餘であつた。

議事件名

議事件

議事件名は明治四十三年度歳入歳出豫算 同上歳出豫算中再議(否決) 同上特別會計歳入歳出豫算二十件 明治四十二年度歳入歳出追加豫算 自明治四十年至明治四十三年度教育費中高岡高等女學校建築費繼續年及支出方法變更 自明治四十七年度教育費中師範學校建築費繼續年及支出方法(否決) 自明治四十三年至明治四十四年度土木費中道路橋梁費繼續年及支出方法 水害土木費支辨縣債借入及償還方法 縣稅賦課規則中改正 縣稅營業稅雜種稅課目課額中改正 富山市立圖書館敷地貸附(否決) 明治四十一年度歳入歳出決算報告 富山縣會々議規則中改正 富山縣會傍聽人取締規則中改正 縣會議員名譽職參事會員費用辨償規則中改正 庄川改修浚渫船讓受の件諮問 議及六件 建議十三件 副議長及び名譽職參事會員補充員の選舉 議長の選舉 報告三件であつた。

議決摘要

(1) 明治四十三年度歳入歳出豫算

歳入

四十三年度豫算

經常部

地租

。金六拾四萬參百四拾參圓貳拾五錢

內郡

。金四萬九千九百四拾參圓貳拾五錢

郡市收入

。金五拾九萬四百圓

但本年度地租豫算高金八拾萬圓(內金七千貳百五拾圓、富山市高岡市)地租壹圓二付市。金七拾參錢八厘、町村。金八拾錢壹厘

營業稅 金五萬六百四拾八圓拾五錢

雜種稅 金拾四萬六千百貳拾九圓貳拾八錢

營業稅附加稅 金參萬九百四拾九圓

但國稅金拾貳萬參千七百九拾六圓ノ十分ノ二五

營業稅附加稅 金六百九圓貳拾錢

但國稅金六千九拾貳圓ノ十分ノ一

所得稅附加稅 金壹萬八千貳百八拾六圓拾錢

但國稅金拾八萬貳千八百六拾壹圓ノ十分ノ一

戶數割 金拾八萬千九百八拾圓貳拾壹錢六厘

內郡 郡市收入 金壹萬四千貳百九拾五圓貳拾錢四厘

但本年度總戶數十一萬三千四百五十四戶、戶數一戶二付町村。金壹圓六拾錢四厘

家屋稅 金貳萬七千參百六拾五圓九拾壹錢貳厘

但富山市家屋坪數二十七萬九千四百五十一坪、此個數一億六百三十一萬三千六百八十個、一個二付。壹毛七此。金壹萬八千七拾參圓參拾貳錢五厘

高岡市家屋坪數十七萬七千三百六十坪、此個數六千八百八十三萬三千九百八十個、一個二付。壹毛參五此。金九千貳百九拾貳圓五拾八錢七厘

財產收入 金七百貳拾七圓

內郡 郡市收入 金壹圓

國庫下渡金 金七百貳拾六圓

河川收入 金參萬八百參拾參圓

雜收入 金千拾六圓

金九萬參千八百拾五圓八拾四錢

內	郡	收	入	金參拾六圓五拾四錢六厘		
內	郡	市	收	入。金九萬參千七百七拾九圓貳拾九錢四厘		
內	郡	收	入	金六萬四千貳百七拾六圓		
內	郡	市	收	入。金百拾五萬八千四百貳拾六圓九拾四錢八厘		
綠	越	臨	時	部		
內	郡	收	入	金壹萬七千八百貳拾七圓七拾七錢參厘		
內	郡	市	收	入。金貳拾圓		
內	郡	市	收	入。金壹萬七千八百貳拾七圓七拾七錢參厘		
國	庫	補	助	金。金參萬五千四百參拾五圓		
財	產	賣	却	代。金八拾貳圓		
內	郡	收	入	金壹圓		
內	郡	市	收	入。金八拾壹圓		
公	債	證	書	償	還	金。金百圓
寄	附	金		金貳千圓		

臨時部合計。金五萬五千四百四拾四圓七拾七錢參厘

內 郡 收 入 金貳拾壹圓

內 郡 市 收 入。金五萬五千四百貳拾參圓七拾七錢參厘

歲入總計。金百貳拾七萬八千四百四拾七圓七拾貳錢壹厘

內 郡 收 入 金六萬四千貳百九拾七圓

內 郡 市 收 入。金百貳拾壹萬參千八百五拾圓七拾貳錢壹厘

歲 出 經常部

警 察 費 金拾七萬貳千五百五拾貳圓

警 察 廳 舍 修 繕 費 金千七百參拾貳圓

土 木 費 金拾五萬五千七百八拾七圓

縣 會 議 諸 費 金壹萬千八百四拾貳圓

衛 生 及 檢 徵 費 金壹萬參百貳拾五圓

教 育 費 金貳拾萬七千六百參拾六圓

郡 廳 舍 修 繕 費 金五百五拾六圓

郡役所費	金五萬八千貳百七拾八圓
救育費	金貳百四拾圓
諸達書及揭示諸費	金千四百貳拾六圓
勸業費	金拾四萬五千四百四圓
縣稅取扱費	金貳萬千九百六拾四圓參拾八錢壹厘
縣廳舍修繕費	金千參百拾參圓
衆議院議員選舉費	金百五拾圓
縣吏員費	金四萬五千四百七拾圓
縣會議員選舉費	金百圓
行政執行費	金五拾圓
財產費	金四百四拾九圓
收用審查會費	金八拾參圓
統計費	金八百九拾九圓
神社費	金百參拾圓
市町村及市町村吏員表彰費	金四百圓

豫備費	金壹萬圓
內郡負擔	金千圓
內郡負擔	金九千圓
經常部合計	金八拾四萬六千七百八拾六圓參拾八錢壹厘
內郡負擔	金五萬九千八百參拾四圓
內郡負擔	金七拾八萬六千九百五拾貳圓參拾八錢壹厘
臨時部	
警察廳舍建築費	金壹萬參百五拾四圓
土木費	金四萬九千五圓
郡市町村土木補助費	金貳萬五千貳拾六圓
市町村傳染病豫防補助費	金千六百四拾九圓
教育費	金貳萬參千九百參拾四圓
教育補助費	金九千九百七拾四圓
勸業補助費	金百八拾八圓
勸業補助費	金四萬八千八百圓

郡 廳 舍 建 築 費	金 四 千 四 百 六 拾 參 圓
縣 債 費	金 六 萬 八 百 七 拾 貳 圓
衛 生 補 助 費	金 七 百 九 拾 六 圓
慈 惠 事 業 補 助 費	金 五 百 圓
小 學 校 教 員 恩 給 金 補 充 費	金 七 千 參 百 六 拾 四 圓
市 町 村 教 育 補 助 費	金 貳 千 圓
勸 業 費 本 年 度 支 出 額	金 壹 萬 七 千 貳 拾 五 圓 參 拾 四 錢
土 木 費 本 年 度 支 出 額	金 八 萬 九 千 九 百 拾 六 圓
教 育 費 本 年 度 支 出 額	金 七 萬 五 千 五 百 貳 拾 七 圓
感 化 院 補 助 費	金 參 千 七 百 圓
臨 時 部 合 計	金 四 拾 參 萬 千 百 九 拾 參 圓 參 拾 四 錢
內 郡 負 擔	金 四 千 四 百 六 拾 參 圓
內 郡 市 負 擔	金 四 拾 貳 萬 六 千 七 百 參 拾 圓 參 拾 四 錢
歲 出 總 計	金 百 貳 拾 七 萬 七 千 九 百 七 拾 九 圓 七 拾 貳 錢 壹 厘
內 郡 負 擔	金 六 萬 四 千 貳 百 九 拾 七 圓

豫算中再議

再議の縣達

郡 市 負 擔 。金百貳拾壹萬參千六百八拾貳圓七拾貳錢壹厘

一、本豫算中「〇」印を付したるは、内務大臣の指揮を受けたる執行額である。而して本表は明治四十三年二月縣告示に比し些少の差異あれども、同通常縣會決議書に據つたものである。

(2) 明治四十三年度歲出豫算中再議

會議の最終日に於て、同豫算の一部に對し知事は左の通り再議に付した。依つて議長は之を一括して議題に供したが、採決の結果十八名の多數を以て前議を改めざることに決した。其の結果として知事は前表「〇」印の如く内務大臣の指揮を受くるに至つたのである。

富山縣達第一二二號

富 山 縣 會

明治四十三年度歲出中左記ノ通り不適當ノ議決ト認ムルヲ以テ府縣制第八十三條ニ依リ之ヲ再議ニ付ス

明治四十二年十二月二十一日

富山縣知事 宇佐美勝夫

歲 出 經 常 部

第三篇 縣會史 上

第十一款 勸業費

第四項 農事試驗場費

第一目 俸給ニ於テ技師一名年額金千百圓及ビ之レニ伴フ賞與ヲ否決セシハ事業ノ執行ヲ妨クル不當ノ議決ナリ

第八項 耕地整理調査費

第一目 俸給ニ於テ技師一名年額金千百圓及ビ之レニ伴フ賞與ヲ否決セシハ事業ノ執行ヲ妨グル不當ノ議決ナリ

第十三項 勸業諸費

第八目 參考書類印刷費

本費ヲ否決セシハ産業ノ發展上ニ阻害ヲ及ボス不當ノ議決ナリ

第十五款 縣吏員費

第一項 吏員費

第一目 俸給ニ於テ金四千五百六拾貳圓ヲ減ジタルハ事業ノ執行ヲ妨グル不當ノ議決ナリ

歲出臨時部

第二款 土木費

第一項 道路橋梁費

第四目 渡船費

發案額金貳千四百九拾壹圓ヲ否決シタルハ縣道第十一號線舊庄川架設ニ係ル伏木橋撤橋ノ結果ニ伴フ公衆交通上ノ設備ヲ缺ク不當ノ議決ナリ

第三款 郡市町村土木補助費

第一項 道路橋梁補助費

第一目 道路橋梁補助費

各郡道路橋梁修繕補助費金參千五百四拾五圓ハ明治三十七年縣令第五十三號指定ノ縣費補助線路ノ修築補助費ニ要スルモノナルニ更ニ金貳萬圓ヲ増額シ指定線以外ニ補助セントスルハ發案ノ本旨ヲ變更スル不當ノ議決ナリ

第八款 勸業補助費

各費目發案ノ金額ヲ半減セシハ或ハ既設補助團體ノ事業繼續ニ動搖ヲ來タシ或ハ昨年議決ノ主旨ニ戻リ或ハ各種補助事業ノ進行ヲ妨グル等何レモ産業ノ發達ヲ阻害スル不當ノ議決ナリ

(3) 明治四十三年度特別會計歲入歲出豫算(二十件)

	歲入	歲出
罹災救助基金	金八萬千七百六拾九圓六錢六厘	同
慈善救濟資金	金五千百八拾參圓參拾九錢七厘	同
水災基金	金千參百參拾七圓五拾六錢五厘	同
衛生基金	金千百九拾六圓八拾九錢八厘	同
教育資金	金壹萬六千六百五拾八圓	同
市町村立小學校教員加俸資金	金四萬七千六百六拾參圓	同
小學校教員恩給基金	金貳千六百六拾四圓	同
小學校教員恩給金	金壹萬參百八拾七圓	同
縣立藥學專門學校基本財產	金六拾九圓	同
富山縣師範學校基本財產	金貳百九拾八圓	同
縣立富山中學校基本財產	金貳百四拾壹圓	同
縣立高岡中學校基本財產	金貳百八拾八圓	同
縣立魚津中學校基本財產	金貳百貳拾貳圓	同

縣立礪波中學校基本財產	金百四拾參圓	同
縣立富山高等女學校基本財產	金百九拾九圓	同
縣立高岡高等女學校基本財產	金百五拾七圓	同
縣立工藝學校基本財產	金貳千六百參拾四圓	同
縣立農學校基本財產	金九百八拾八圓	同
縣立蠶業學校基本財產	金七百七拾七圓	同
縣立商船學校基本財產	金七圓	同
(4) 明治四十二年度歲入歲出追加豫算		
歲入臨時部	金壹萬七千六百拾六圓	
縣債	金貳拾萬圓	
歲入總計	金貳拾壹萬七千六百拾六圓	
歲出經常部	金四萬六百參拾圓	
土木費	金貳千五拾壹圓	
縣會議諸費		

經常部合計金四萬貳千六百八拾壹圓

歲出臨時部

土 木 費 金拾五萬七千五百五拾壹圓

郡市町村土木補助費 金壹萬參千八百八拾四圓

縣 債 費 金參千五百圓

臨時部合計金拾七萬四千九百參拾五圓

歲出總計金貳拾壹萬七千六百拾六圓

教育費繼續
方法變更

(5) 自明治四十三年度教育費中高岡高等女學校建築費繼續年期及支出方法變更
至明治四十三年度

既定豫算高 變更豫算高

總 豫 算 高 金九萬千九百五拾九圓 金拾萬千四百拾六圓

明治四十三年度支出額 金貳萬五百九拾八圓 金貳萬九千七百八拾五圓

一、無變更の年度に係るものは省略。

土木費繼續
方法

(6) 自明治四十三年度土木費中道路橋梁費繼續年期及支出方法
至明治四十四年度

一金參萬四千八百貳拾參圓 總 豫 算 高

內 譯

縣債借入等
方法

金壹萬圓

明治四十三年度支出額

金貳萬四千八百貳拾參圓 明治四十四年度支出額

一、本表は神通川架設の有澤橋架換費及び其の前後道路の修繕費である。

(7) 縣債借入及償還方法

一、支 辨 明治四十二年度水害土木費

一、起債額 金貳拾萬圓以內

一、借 入 明治四十三年度に於て罹災救助基金

一、利 率 一ヶ年元金の百分の五以內

一、償 還 元金償還は明治四十三年度は据置明治四十四年度乃至明治四十六年度

の三ヶ年間、利子支拂は毎年度三月借入金に對する額

(8) 富山縣會々議規則中改正

縣會々議規
則中改正

第一章 通 則

第一條 會議ハ午後一時ニ始メ午後五時ニ終ルヲ定例トス但シ時宜ニヨリ議長之ヲ

伸縮ス

第七條ヲ削除シ以下順次繰上ク

第三篇 縣會史 上

第八條 開議時刻ニ至リ出席議員定數ニ滿タサルトキハ一時間ヲ過キ之ヲ點檢シ尙定數ニ滿タサルトキハ更ニ一時間ヲ經之ヲ點檢スヘシ此場合ニ於テ尙定數ニ滿タサルトキハ議長ハ當日開議セサルコトヲ宣告シ退散ヲ命スヘシ但シ本條ノ場合ニ際シ議長副議長共ニ出席セサルトキハ出席議員中ノ年長者退散ヲ宣告シ當日ノ會議ヲ開カサルモノトス(舊第九條)

第九條ヲ削除シ以下順次繰上ク(舊第十條)

第二章 議事日程

第十四條ヲ削除シ以下順次繰上ク(舊第十六條)

第三章 會議

第十五條 會議ヲ開クトキハ議長ハ諸般ノ報告ヲ爲シ然後議事日程ニ入り書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシムヘシ但シ議長ノ意見ニ依リ朗讀ヲ省略スルコトヲ得(舊第十八條)

第十六條 修正意見ノ提出アルトキハ其ノ提出ノ順序ニ依リ説明ヲ爲サシムヘシ(舊第十九條)

第十七條 第四項ヲ左ノ通訂正ス(舊第二十條第四項)第三讀會ニ於テハ第二讀會決

議ノ全案又ハ條項ニ就キ議決ス

第四章 動議及建議

第十九條中「五名以上」トアルヲ「三名以上」ト訂正ス(舊第二十二條)

第五章 發言及討議

第二十二條 發言ハ議長ノ許可ヲ俟テ演壇ニ於テ爲スヘシ但シ質問又ハ單簡ナル事項ハ議長ノ許可ヲ受ケ議席ニ於テ述フルコトヲ得

同時ニ二人以上發言ヲ求ムルトキハ議長ハ其一人ヲシテ發言セシムヘシ

豫メ賛成反對ノ意志ヲ表シテ發言ヲ求ムルノ通告アリタル時ハ其順序ニ依リ賛否交互ニ發言ヲ許スヘシ(舊第二十五條)

第六章 議決

第二十八條 議長採決ヲ爲サントスルトキハ採決ニ付スヘキ議題ヲ宣告スヘシ議長宣告ノ後ハ其議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス(舊第三十一條)

第二十九條中「原案ニ」トアルヲ「議案ニ」ト訂正ス(舊第三十二條)

第三十條 採決宣告ノ際ハ議長議場ノ閉鎖ヲ命スヘシ(舊第三十三條)

第三十一條 議案ニ就キ發言ナキトキハ全會異議ナキモノトシテ決定スルコトヲ得

(舊第三十四條)

第三十二條中「議席ニ在ル議員」トアルヲ「議場ニアル議員」ト訂正ス(舊第三十五條)

第七章 小會議

第三十六條 小會議ハ議論數派ニ岐レ孰レモ過半數ニ至ラサルトキ又ハ議長ニ於テ必要ナリト認ムルトキ之ヲ開ク(舊第三十九條)

第三十七條中但シ書ヲ削除ス(舊第四十條)

第八章「審査委員」トアルヲ「委員」ト訂正ス

第三十九條 特ニ審査ヲ要スル議案ハ會議ノ議決ニ依リ委員ニ附托スルコトヲ得

委員ノ數ハ奇數トシ其員數ハ會議ノ議決ニ依ル(舊第四十二條)

第四十條中委員ハノ下「發議者ノ外」ノ五文字ヲ削除ス(舊第四十三條)

第四十一條中「審査委員」トアルヲ「委員」ト訂正ス以下之ニ做フ(舊第四十四條)

第四十二條トシテ左ノ一ヶ條ヲ新設シ以下順次繰下ク

第四十二條 委員附托ノ事項ニ就キ發議者ハ委員會ノ求メニ依リ又ハ自己ノ意見ニ依リ委員會ニ出席シテ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十三條 委員會ニ於テハ委員長ヲ互選スヘシ

委員長ハ會議ヲ整理シ其秩序ヲ保持ス(舊第四十五條)

第四十五條 委員會ノ決議ハ委員長ヨリ會議ニ報告スヘシ但シ小數者ノ意見ハ之ヲ

會議ニ報告スルコトヲ得(舊第四十七條)

第九章 會議錄及速記錄

第四十六條 會議錄ニ署名スヘキ議員ノ數ヲ三名トス

會議錄ハ調製シタル書記之ニ署名スヘシ(舊第四十八條)

第四十七條 議長ハ速記錄ヲ作ラシメ之ヲ議員ニ配付ス但シ臨時會ニ在リテハ速記錄ヲ省クコトヲ得(舊第四十九條)

第四十八條中「及速記錄」ノ四文字ヲ削除ス(舊第五十條)

第十章 議場ノ秩序

第四十九條 議員缺席スルトキハ開會時刻前其事由ヲ議長ニ届出ツヘシ(舊第五十一條)

第五十二條 會議中ハ私語若ハ喫煙ヲ禁ス(舊第五十四條)

第五十三條ノ次ニ左ノ附則ヲ設ク

附則

第三篇 縣會史上

此規則ハ議員三分ノ一以上ノ請求アルニアラサレハ改正ノ議ニ附スルコトヲ得ス

一、本件は前會の決議に依り、委員の起草したものを議長に於て内務大臣の許可を得たものである。

縣會傍聽人

取締規則中

(9) 富山縣會傍聽人取締規則中改正
第一條 會議ノ傍聽ヲ爲サント欲スルモノハ其住所氏名ヲ受附簿ニ記入シ傍聽券ヲ

受ケ入場スヘシ但シ年齡滿二十歳以上ノモノニ限ル

第三條及第六條中「受付係」トアルヲ「掛員」ト訂正ス

一、本件も同上。

議員等費用

辨償規則中

(10) 縣會議員名譽職參事會費用辨償規則中改正

同規則中第七條但書(但縣廳所在地ニ住所ヲ有スル者ノ手當ハ半額トス)を削り、明治四十三年度より實施すること、決した。

諮問

(11) 諮問

目下内務省施行ニ係ル庄川改修工事ニ使用ノ淺瀬船ノ中一艘ハ同工事竣功後之ヲ縣ニ讓受ケントス

議及

(12) 議及(六件)

(一) 郡市町村土木補助費の件、(二) 經常臨時の土木費殘餘金の件、(三) 蠶病豫防事務所出張所の件、(四) 米穀検査員待遇の件、(五) 刑事巡査被服の件、(六) 縣會速記者給料の件に關し議及した。

建議

(13) 建議(十三件)

内務大臣に對するもの二件、即ち(一) 地租輕減に關する件、(二) 庄川改良工費殘餘金を以て河身改良完成方の件。知事に對するもの十一件、即ち(一) 庄川河身改良工費殘餘金の件、(二) 縣内樞要の國縣道貨取橋買上の件、(三) 泊町の道路港灣等整備の件、(四) 改修道路根本義確立の件、(五) 高等女學校新設の件、(六) 明治三十七年縣令第五十三號改正の件、(七) 港灣修築の件、(八) 常願寺川下流架橋の件、(九) 大澤野用水取擴工事補助の件、(一〇) 輸出羽二重検査の件、(一一) 藥學專門學校別科生の件を建議した。

役員選舉

(14) 副議長及び名譽職縣參事會補充員の選舉

十一月二十六日森丘議長は副議長の選舉を行ふべき旨を告げ、滿場一致の意見に依り、議長は澤木又八を指名した。續いて名譽職縣參事會補充員の選舉を行ひ、聯記投票を以て六名を選舉した。

議長選舉

(15) 議長の選舉

十二月二十一日最終日閉會間近くに、森丘議長は辭職し、澤木副議長議長席に着き議長選舉を行ふ旨を告げ、立會人として佐々木四番島二十七番を指名し、投票を行つた結果は左の通りであつた。

〔議長〕 根尾宗四郎 十八票(當選) 大橋十右衛門 一票

白票 十二票

報告

(16) 報告(三件)

開會第一日たる十一月二十二日森丘議長より(一)皇太子殿下啓に際して、縣會を代表し、頌徳表を上りたること、(二)同殿下啓に當り、議長副議長は縣會を代表して、長くも拜謁の光榮を擔ひたること、(三)前會の決議に依り、縣會々議規則の一部を改正し、内務大臣の認可を得たることを報告した。

特 殊 事 項

議事堂雨漏

(1) 議事堂の雨漏

十二月二日午前六時三十分吹き荒みし一陣の烈風は新築縣會議事堂會議室の屋根百坪計りの内五六十坪計りを吹き飛ばし、車軸を流すが如き降雨の爲に議員席の過半は椅子

子卓子は勿論敷物一面に甚しい雨漏がした。土木課員は工夫を指揮して應急處置を講じたが、午後一時より開議の縣會は之が爲に休會の已むなきに至つた。翌三日午後二時開議に先だち宇佐美知事は起つて、昨日は議事堂の陸屋根に雨漏を生じて、休會するに至つた。此の陸屋根は日比博士の設計にて、工事は實例に鑑み、監督を嚴にしたものであつたが、斯かる災害を見たことは實に意外であつた。其の原因の如何を問はず、光榮ある議事堂にして落成式後旬日の内に此の事ありしは遺憾千萬である。しかし事茲に至りし上は如何ともする能はず、直ちに應急の修理を加へたが、尙研究を重ねて災害を再びしないやう工事を加へる考であると陳謝した。之に對して島二十七番は、この議事堂は縣民が熱誠を捧げて、東宮の御旅館に供し奉つた名譽ある建物である。然るに竣工日もなく斯の災害を見たことは上 皇室に對して恐懼に堪へず、下縣民に對して申譯なき次第である。勿論天災であるが故に深く當局者を追究しないが、將來に於ては斯かる失態を再びせず、また火災に就いても最も周密の注意を加へんことを望むと注意し、知事はまた御忠言は了承したから、十分に部下を監督して過失を再びしないことに力むる旨を述べて無難に治まつた。

知事等の踏査要求

(2) 知事部長の實地踏査要求

十一月三十日土木費第一讀會議事に入るや、參與員の説明の不親切なること、豫算の杜撰なること等について攻撃的質問續出し、遂に島二十七番より、知事、内務部長に富山飛騨間道路、福光城端間道路、下新川郡の一二川及び小矢部川の實地踏査を要求し、其の期限を來る五日までとし、土木費議事跡廻しの動議を提出した。藤田十八番之に賛して、小矢部川の視察には舟と靴とは御免を被りたし。尙知事等の踏査までには本會も全員委員となりて十分調査したしと云ひ、川瀬六番は、知事が出張のときは經驗ある隨行を伴はれたしと述べたが、永井參與員は一々答辯の上、尙二十七番の動議成立するも、出張を受合ふことは出來ないと辯じ、二十七番は其は當局の勝手である。本會は希望を決議するまで、あると應じ、採決の結果、右の動議が多數にて決議せられた。越えて十二月十七日知事は登壇して、過日當議會は我々に對して河川道路等の實地調査を希望せられたが、折角の事であるが、我々の職掌上の都合で、遺憾ながら其の希望に應じ兼ねた次第である云々と述べた。

苦肉の投票

(3) 役員選舉に裏を掻く

名譽職參事會員補充員六名の選舉に當り、多數黨たる進派に於ては、武田清次郎を特に高點とする計畫であつたが、少數黨たる政派は之を知りて其の裏を掻き、自黨の票數を進

派に投じて、順序を攪亂し、武田を第三位に下らしめた。是れ武田が政派を去つて進派に投じた仇返しであつた。

七三、明治四十三年二月臨時縣會

本會は明治四十三年二月七日開會、翌八日閉會した。議長は根尾宗四郎議員、席次は前會に同じく、知事は宇佐美勝夫で、庄神通兩川の河口工事に關する諮問に付いて決議した。

議 件

議事件名

議事件名は諮問二件であつた。

議 決 摘 要

諮 問

諮問(二件)

- (一) 庄川改修工事請願及伏木橋架換ノ件
- 一、内務省直轄庄川改修工事ハ明治四十二年度限り終了スル筈ノ處此際伏木河口工事ノ完成ヲ期センカ爲メ、四十三、四十四ノ兩年度ニ於テ左記ノ金額ヲ國庫ニ納付

シ殘金ト相俟ツテ相當追加工事ノ施行ヲ請願セントス

金 七 萬 圓

内

金 壹 萬 圓

明治四十三年度支出

金 六 萬 圓

明治四十四年度支出

二、庄川改修工事ノ爲メ撤去セル伏木橋ハ架設ノ必要ヲ認ムルニ依リ本諮問ノ實施セラル、場合ハ四十三年度ニ於テ國庫ヨリ工費ノ三分ノ二ノ補助ヲ得、工費金參萬貳千七百貳拾貳圓ヲ以テ上流適當ノ箇所ニ架橋セントス

本件ハ、内務省直轄庄川改修工事費ノ殘餘金約參拾參萬圓を更に伏木河口工事費金四拾萬圓に充て、之を施工せられんことを請願し、其ノ不足額金七萬圓を縣費より支出せんとするものである。縣會に於ては既に前會に於て之に關し、内務大臣に建議したる關係もあれば、進みて之に賛同し、其の施行に際しては提案の金額の範圍にて、その收支豫算は、縣參事會の決定に委任する旨を答申した。

(二) 神通川河口工事ノ件

神通川河口ハ内務省ヨリ庄川改修工事ニ使用セル浚渫船ノ讓與ヲ受ケ浚渫スヘキ豫

定ノ處前ノ諮問ノ如ク實施セラル、場合ハ該計畫變更ノ已ムヲ得サルニ依リ更ニ其餘金五萬四千貳百四拾圓ノ工費ヲ以テ四十三年度ニ相當工事ヲ施行セントス
本件は應急處置として止むを得ざるものと認め、之が施行に際しては提案に明記せられたる金額の範圍に於て、其の收支豫算を決議することは、縣參事會に委任すること。尙當局者は馳越線下流の完成及び運河開通に關する同川の根本義を確立する方法を定め、縣の負擔に堪へざるものは、國庫の補助を請求する等相當の處置を執らんことを望む旨を答申した。

特 殊 事 項

内議會を開く

二月七日散會後、知事は議員全員に居残りを求めて、内議會を開き懇談した。先づ昨年の決議に關して、縣會と意見を異にし、已むを得ず大臣の指揮を得て原案を執行したることを述べ、夫れより今回の諮問に關し、内務省と交渉せし詳細の顛末を述ぶる所があつた。その結果として、第二日の議事はいと滑かに進行し、滿場總起立を以て諮問を是認することゝなつた。

内議會

七三 明治四十三年十二月通常縣會

開閉

本會は明治四十三年十一月十日開會、同十二月九日閉會した。議長は根尾宗四郎、議員席次は前會に同じく、知事は濱田恒之助で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百參拾八萬貳千九百五拾四圓であつた。

議事件

議事件名

議事件名は明治四十四年度歳入歳出豫算 同上特別會計歳入歳出豫算二十一件 明治四十三年度歳入歳出追加豫算 自明治四十四年度至明治四十六年度教育費中女子師範學校建築費繼續年及支出方法 自明治四十四年度至明治四十五年度土木費繼續年及支出方法 縣稅賦課規則中改正二件 縣稅營業稅雜種稅課目課額中改正二件 水產講習所基金規則 縣有不動産處分 縣會議員名譽職參事會費費用辨償規則改正(否決) 明治四十二年度歳入歳出決算報告 議及十三件 建議二十件であつた。

議決摘要

四十四年度豫算

(1) 明治四十四年度歳入歳出豫算

歳入

經常部

地租 金六拾八萬九千參百五拾壹圓貳錢五厘

郡收 金五萬千八百五拾圓五錢參厘

郡市收 金六拾參萬七千五百圓九拾七錢貳厘

但本年度田畑地租豫算高金百參拾九萬四千圓(金貳千五百圓、富山市高岡市)、地租壹圓ニ付市金四拾貳錢五厘此金千六拾貳圓五拾錢、町村金四拾六錢此金六拾四萬九拾圓

宅地地租豫算高金貳拾壹萬六千參百九拾四圓(金參萬九千參百九拾四圓、富山市高岡市)、地租壹圓ニ付市金拾七錢貳厘六六此金六千八百壹圓七拾六錢八厘、町村金拾八錢六厘八八此金參萬參千七拾七圓七拾六錢

其ノ他ノ土地地租豫算高金貳萬千四百四拾圓(金八拾五圓、富山市高岡市)、

地租壹圓二付市金參拾五錢八厘六此金參拾圓四拾八錢壹厘町村金參拾八錢八厘壹參此金八千貳百八拾八圓五拾壹錢六厘

營業稅 金四萬九千六百六拾六圓四拾錢

雜種稅 金拾四萬五千七百拾七圓壹錢

營業稅附加稅 金參萬九千貳百八拾六圓

但國稅金參拾萬貳千貳百圓ノ百分ノ十三

礦業稅附加稅 金五百四拾六圓

但礦產稅金四千圓ノ百分ノ十試掘礦區稅金千六百圓ノ百分ノ三採掘礦區稅金千四百圓ノ百分ノ七

所得稅附加稅 金壹萬七千六百八拾六圓貳拾錢

但國稅金四拾四萬貳千五百五拾五圓ノ百分ノ四

戶數 割 金拾九萬八千七百拾貳圓五拾錢

郡收 入 金壹萬四千七百六拾壹圓五拾錢

內 郡市收 入 金拾八萬參千九百五拾壹圓

但本年度總戶數十一萬三千五百五十戶戶數一戶ニ付町村金壹圓七拾五錢

家屋稅 金參萬千六百四拾貳圓六拾四錢八厘

但富山市家屋總坪數二十八萬二千六百五十三坪此個數一億六百四十七萬五千五百四十九個百個ニ付壹錢九厘四六此金貳萬七百貳拾圓拾四錢貳厘

高岡市家屋總坪數十七萬九千七百十坪此個數六千九百四萬二千三百九十個百個ニ付壹錢五厘八貳此金壹萬九百貳拾貳圓五拾錢六厘

財產收 入 金八百六圓

內 郡收 入 金壹圓

內 郡市收 入 金八百五圓

國庫下渡金 金參萬七百拾貳圓

河川收 入 金千七百拾參圓

雜收 入 金拾壹萬七千參百四拾六圓六拾錢

內 郡收 入 金百八拾六圓

內 郡市收 入 金拾壹萬七千百六拾圓六拾錢

經常部合計金百參拾貳萬貳千六百四拾五圓參拾八錢參厘

內 郡收 入 金六萬六千七百九拾八圓五拾五錢參厘

郡市收入	金百貳拾五萬五千八百四拾六圓八拾參錢
臨時部	
越	金貳萬貳百五拾八圓六拾壹錢七厘
郡市收入	金五百拾五圓四拾四錢七厘
內	金壹萬九千七百四拾參圓拾七錢
國庫補助金	金參萬七千八百六拾八圓
財產賣却代	金八拾貳圓
內	金壹圓
郡市收入	金八拾壹圓
公債證書償還金	金百圓
寄附金	金貳千圓
臨時部合計金	六萬參百八圓六拾壹錢七厘
內	
郡市收入	金五百拾六圓四拾四錢七厘
內	金五萬九千七百九拾貳圓拾七錢
歲入總計金	百參拾八萬貳千九百五拾四圓

內	
郡市收入	金六萬七千參百拾五圓
歲	金百參拾壹萬五千六百參拾九圓
經常部	
警察	金拾七萬九千四百貳拾壹圓
警察廳舍修繕費	金參千八百八拾八圓
土木	金拾五萬六千九百四拾七圓
縣會議諸費	金壹萬貳千八百八拾參圓
衛生及檢微費	金壹萬五千百拾九圓
教育	金貳拾貳萬四千五百七拾七圓
郡廳舍修繕費	金千四圓
郡役所費	金六萬貳千貳百六拾壹圓
救育	金貳百九拾參圓
諸達書及揭示諸費	金千四百貳拾六圓
勸業費	金拾五萬六千六百貳拾四圓

縣稅取拔費	金貳萬參千參拾七圓六拾六錢
縣廳舍修繕費	金千參百拾參圓
衆議院議員選舉費	金百五拾圓
縣吏員選舉費	金四萬八千貳百參拾壹圓
縣會議員選舉費	金百五拾圓
行政執行費	金五拾圓
財產費	金四百四拾九圓
收用審查會費	金八拾參圓
統計費	金九百七拾八圓
神社費	金百參拾圓
地方改良費	金八百圓
豫備費	金壹萬圓
郡負擔	金千圓
內郡市負擔	金九千圓
經常部合計	金八拾九萬八千四百拾四圓六拾六錢

內郡負擔	金六萬四千貳百六拾五圓
郡市負擔	金八拾參萬四千四百拾九圓六拾六錢
臨時部	
警察廳舍建築費	金貳千九拾六圓
土木費	金六萬八千參百八拾七圓
郡市町村土木補助費	金參萬參百貳拾六圓
市町村傳染病豫防補助費	金千六百四拾九圓
教育費	金壹萬貳千五百貳拾九圓
教育補助費	金九千九百參拾貳圓
勸業費	金百八拾八圓
勸業補助費	金四萬五千八百圓
郡廳舍建築費	金參千五拾圓
縣債費	金拾貳萬參千四百拾貳圓
衛生補助費	金七百九拾六圓
慈善事業補助費	金五百圓

小學校教員恩給金補充費	金壹萬七百貳拾八圓
市町村教育補助費	金貳千圓
勸業費本年度支出額	金壹萬四千六百八拾九圓參拾四錢
土木費本年度支出額	金九萬七千參百八拾七圓
教育費本年度支出額	金五萬七千參百七拾圓
感化院補助費	金參千七百圓
臨時部合計金四拾八萬四千五百參拾九圓參拾四錢	
內 郡 負 擔	金參千五百圓
內 郡 市 負 擔	金四拾八萬四千四百八拾九圓參拾四錢
歲出總計金百參拾八萬貳千九百五拾四圓	
內 郡 負 擔	金六萬七千參百拾五圓
內 郡 市 負 擔	金百參拾壹萬五千六百參拾九圓
(2) 明治四十四年度特別會計歲入歲出豫算(二十一件)	
歲 入	歲 出
罹災救助基金	金拾四萬六千八百八拾參圓
	歲入ニ同シ

特別會計豫算

慈惠救濟資金	金八千參拾圓	同
水災基金	金參千貳百九拾四圓	同
衛生基金	金千百參拾六圓	同
教育資金	金貳萬貳千五百貳拾壹圓	同
市町村立小學校教員加俸資金	金五萬百貳拾五圓	同
小學校教員恩給基金	金貳千八百貳圓	同
小學校教員恩給金	金壹萬參千七百五拾九圓	同
縣立藥學專門學校基本財產	金九拾貳圓	同
富山縣師範學校基本財產	金貳百五拾貳圓	同
縣立富山中學校基本財產	金參百四拾參圓	同
縣立高岡中學校基本財產	金貳百五拾四圓	同
縣立魚津中學校基本財產	金百七拾九圓	同
縣立礪波中學校基本財產	金百參拾圓	同
縣立富山高等女學校基本財產	金貳百五拾貳圓	同
縣立高岡高等女學校基本財產	金百七拾參圓	同

追加豫算

縣立工藝學校基本財產	金貳千貳百四拾壹圓	同
縣立農學校基本財產	金八百拾九圓	同
縣立蠶業學校基本財產	金七百七拾六圓	同
縣立商船學校基本財產	金四拾參圓	同
水產講習所基金	金千圓	同

(3) 明治四十三年度歲入歲出追加豫算

歲入	經常部	金貳萬五千五百七圓五拾七錢壹厘
地租	割	

但郡市收入

本年度田畑地租豫算高金百參拾九萬七千九百五拾九圓、地租壹圓ニ付金壹錢七厘壹五此金貳萬參千九百七拾四圓九拾九錢七厘
 同上宅地地租豫算高金拾九萬五千圓、地租壹圓ニ付金六厘九七此金千參百五拾九圓拾五錢
 同上其ノ他ノ土地地租豫算高金壹萬九千九百八拾五圓四錢七厘、地租壹圓ニ付金四錢四厘四七此金百七拾參圓四拾貳錢四厘

戶數 割 金七千貳百六拾壹圓五錢六厘
 但本年度總戶數拾壹萬參千四百五十四戶、一戶ニ付金六錢四厘

家屋稅 金千貳百拾圓參拾五錢七厘
 但富山市家屋坪數二十七萬九千四百五十一坪、此個數一億六百三十一萬三千六百八十個、一個ニ付七忽五此金七百九拾七圓參拾五錢參厘

高岡市家屋坪數十七萬七千三百六十坪、此個數六千八百八十三萬三千九百八十個、一個ニ付六忽此金四百拾參圓四厘
 經常部合計金參萬參千九百七拾八圓九拾八錢四厘

歲出 經常部

土費 金參萬參千六百參拾圓
 縣稅取扱費 金參百四拾八圓

經常部合計金參萬參千九百七拾八圓

(4) 自明治四十四年度至明治四十六年度教育費中女子師範學校建築費繼續年期及支出方法
 一金拾五萬六千七百六拾四圓
 總豫算高

教育費繼續方法

內譯

土木費繼續方法

金參萬五千貳拾四圓	明治四十四年度支出額
金六萬千九百貳拾五圓	明治四十五年度支出額
金五萬九千八百拾五圓	明治四十六年度支出額
(5) 自明治四十四年度至明治四十五年度土木費繼續年期及支出方法	
一金四萬四千參百五拾圓	總 豫 算 高

金壹萬貳千五百六拾四圓 明治四十四年度支出額
 金參萬千七百八拾六圓 明治四十五年度支出額

一、本費の内容は笹津橋架換費金參萬八千九百五拾圓、海岸測量費金五千四百圓である。

不動産處分

(6) 縣有不動産處分

富山市總曲輪四八七番地ノ一ノ内
 一、公園地 一千七十二坪二合四勺
 右公園地内ニ富山市立圖書館建設ノ爲メ該土地貸付ノ件出願ニ付左記條件ヲ附シ無償ニテ富山市ニ貸附スルモノトス

條 件

- 一、貸附期限ハ該地ニ圖書館存續スル期間トス
 但シ縣ノ都合ニ依リ返地ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニ於テ若シ市カ返地ヲ爲スコト能ハサル事情アルトキハ縣ニ於テ指定スル代用地約一千七十坪ヲ提供セシムルカ又ハ之ニ相當スル代金ヲ納付セシムルモノトス
 - 二、圖書館ヲ建築スル場合ニ於テハ該工事ノ設計書ヲ提出シ豫メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
 - 三、貸附土地及地上物件(現在ノ分)ノ管理方法ニ關シテハ知事ノ指揮監督ヲ受クヘシ
- (7) 議及(十三件)
- (一) 娼妓病院設置の件
 - (二) 米穀検査員待遇の件
 - (三) 築設置鮎漁期改正の件
 - (四) 本縣基
 - (五) 福光生糸同業組合補助の件
 - (六) 太田橋架設計變更の件
 - (七) 乾藪
 - (八) 園藝獎勵事業補助費支出の件
 - (九) 米穀検査勵行の件
 - (七) 事項
 - (一〇) 高岡物産陳列場施設補助の件
 - (二) 出町停車場道路改修の件
 - (三) 碁石村北蟹
 - (三) 行啓記念樹苗圃分園設置の件に關シ議及した。

議 及

(8) 建議(二十件)

- (一) 縣令第五十三號根本的改正の件、
- (二) 道路の改修修繕の件、
- (三) 角川の河身改修河口取擴の件、
- (四) 道路の幅員取擴の件、
- (五) 貨取橋買上の件、
- (六) 黒部川下流の橋梁外二橋梁架設の件、
- (七) 聯合府縣共進會開設等の件、
- (八) 醸造技師雇聘の件、
- (九) 水産講習所設備完成の件、
- (一〇) 蕪蕪地開墾獎勵の件、
- (一一) 蕪蕪業獎勵の件、
- (一二) 營業稅雜種稅課目課額中改正發案の件、
- (一三) 警察電話線の一部を逕信省へ提供の件、
- (一四) 地方病研究補助發案の件、
- (一五) 癩豫防費負擔額の件、
- (一六) 蠶業學校々舎新築の件、
- (一七) 藥學專門學校完備の件、
- (一八) 東部高等女學校設置の件、
- (一九) 農學校に森林科設置の件、
- (二〇) 商船學校舎新設の件を建議した。

特殊事項

大芝參與員の窮迫

六月十七日岩田十四番飲食店取締規則を以て學校の附近二丁以内の距離に於て歌舞音曲又は喧騒なる業務を禁止しあるも、單純なる飲食店又は料理店が悉くそれに依つて營業を禁止せらるゝは不都合である。當局は如何なる法規に基づいて右の方針を執るかと問ひ、大芝參與員は、客間あるものは二丁以内にては特別の事情あるものにあざれば許可せざるの方針であると答ふるの外はないと述べたので、佐々木四番はその説明の冷淡を難じて、營業上の自由は憲法の保障する所で、警察が一片の内規を以て處斷するは不當であると肉迫し、大芝は此の上述ぶる必要はない。序ながら營業の自由は何等憲法の保障する限りでないことを斷り置くと云つた。四番は、法律上苟も人民の權利に關するものは許否の理由を明白に説明ありて然るべきであるに、營業上の自由を憲法外なりとなす當局の辭は解し難い。又特別の事情あるものは之を許すとの事なるが、その特別の事情とは抑、何を指すか敢て教を賢明なる大芝參與員に乞ふと皮肉つた。大芝窮迫して、冷淡といはれても之れ以上言ふことは出來ないと應じ、四番は更に奮然起たんとした。形勢穩かならずと見た永友參與員は起つて他の議員の質問に答へ、之が爲に議事緩和して漸く事なきを得た。

七四、明治四十三年十二月臨時縣會

本會は明治四十三年十二月十五日開會、同月二十日閉會した。議長は根尾宗四郎議員、席次は前會に同じく、知事は濱田恒之助で、主として本年度の水害土木費追加豫算及び輕便鐵道補助の諮問に關する決議をした。

議 件

議事件名

議事件名は明治四十三年度歳入歳出追加豫算 明治四十四年度歳入歳出追加豫算
自明治四十四年度 土木費中神通川河川臺帳調製費繼續年期及支出方法 自明治四十四年度
至明治四十五年度 土木費中道路橋梁費測量費繼續年期及支出方法變更 水害土木費支辨縣債借入及償還
土木費中道路橋梁費測量費繼續年期及支出方法變更 水害土木費支辨縣債借入及償還
方法 輕便鐵道等補助の件諮問 議及二件であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治四十三年度歳入歳出追加豫算

追加豫算

歳入 經常部

地 租 割 金參萬千八百八拾七圓五拾錢壹厘

但郡市收入

本年度田畑地租豫算高金百參拾九萬七千九百五拾九圓地租壹圓ニ付金貳錢壹厘四
四此金貳萬九千九百七拾貳圓貳拾四錢壹厘
同上宅地地租豫算高金拾九萬五千圓地租壹圓ニ付金八厘七壹此金千六百九拾八圓

四拾五錢

同上其ノ他ノ土地地租豫算高金壹萬千九百八拾五圓四錢七厘地租壹圓ニ付金壹錢
八厘〇九此金貳百拾六圓八拾壹錢

戶 數 割 金九千七拾六圓參拾貳錢

但本年度總戶數十一萬三千四百五十四戶一戶ニ付金八錢

家 屋 稅 金千四百六拾六圓拾九錢四厘

但富山市家屋坪數二十七萬九千四百五十一坪此個數一億六百三十一萬三千六百八
十個一個ニ付九忽此金九百五拾六圓八拾貳錢參厘

高岡市家屋坪數十七萬七千三百六十坪此個數六千八百八十三萬三千九百八十個一
個ニ付七忽四此金五百九圓參拾七錢壹厘

經常部合計金四萬貳千四百參拾圓壹錢五厘

歳入 臨時部

繰 越 金 金五百六拾九圓九拾八錢五厘

但郡市收入

國 庫 補 助 金 金拾八萬四千圓

第三篇 縣會史上

縣

債

金五拾五萬圓

臨時部合計金七拾參萬四千五百六拾九圓九拾八錢五厘
歲入總計金七拾七萬七千圓

歲出經常部

縣稅

取

撥

費

縣吏

員

費

金四百參拾圓

經常部合計金壹萬千五百八拾九圓

歲出臨時部

土

木

費

金七拾五萬貳千九百四拾參圓

郡市町村土木補助費

金九千八百四拾五圓

縣債

費

金貳千六百貳拾參圓

臨時部合計金七拾六萬五千四百拾壹圓

歲出總計金七拾七萬七千圓

追加豫算

(2) 明治四十四年度歲入歲出追加豫算

歲入經常部

地

租

割

金四萬五千六百圓貳厘

但郡市收入

本年度田畑地租豫算高金百參拾九萬四千圓地租壹圓二付金參錢四毛此金四萬貳千參百七拾七圓六拾錢

宅地之租豫算高金貳拾壹萬六千參百九拾四圓地租壹圓二付金壹錢貳厘參毛五此金貳千六百七拾貳圓四拾六錢六厘

其他ノ土地地租豫算高金貳萬四千四百四拾圓地租壹圓二付金貳錢五厘六毛五此金五百四拾九圓九拾參錢六厘

戶

數

割

金壹萬貳千九百四拾四圓七拾錢

但本年度總戶數十一萬三千五百五十戶戶數一戶二付町村金拾壹錢四厘

家

屋

稅

金貳千參拾參圓五拾八錢四厘

但富山市家屋個數一億六百四十七萬五千五百四十九個百個二付金壹厘參毛壹此金千參百九拾四圓八拾參錢

高岡市家屋個數六千九百四萬二千三百九十個百個二付金壹厘〇七此金七百參拾八圓七拾五錢四厘

經常部合計金六萬六千七百七拾八圓貳拾八錢六厘

歲入 臨時部

金五百七拾壹圓七拾壹錢四厘

但郡市收入

歲入總計金六萬千貳百五拾圓

歲出 經常部

金六百貳拾貳圓

縣 稅 取 扱 費

縣 吏 員 費

經常部合計金貳千八百圓

縣 債 費

土木費本年度支出額

臨時部合計金五萬八千四百五拾圓

歲出總計金六萬千貳百五拾圓

臨時部合計金五萬八千四百五拾圓

(3) 自明治四十四年度土木費中神通川河川臺帳調製費繼續年期及支出方法
至明治四十五年度

土木費繼續
方法

一金壹萬貳千九百七拾九圓

內 譯

總 豫 算 高

金九千圓

金參千九百七拾九圓

(4) 自明治四十四年度土木費中道路橋梁費測量費繼續年期及支出方法變更
至明治四十五年度

總 豫 算 高

既 定 豫 算 高

變 更 豫 算 高

明治四十五年度支出額

金四萬四千參百五拾圓

金參萬七千九百參拾七圓

一、無變更の年度に係る分は省略。

(5) 縣債借入及償還方法

一、支 辨 明治四十三年度水害土木費

一、起債額 金五拾五萬圓

一、借 入 大藏省預金部より金四拾五萬圓、罹災救助基金より金拾萬圓、孰れも記
名債券(五萬圓、壹萬圓、五千圓の三種)發行

一、利 率 罹災救助基金の分は年四分二厘、其の他は年四分五厘以内

縣債借入等
方法

土木費繼續
方法變更

一、償還 元金償還は明治四十三年度据置明治四十四年度乃至明治五十三年度の十ヶ年間の利子支拂は各年度内

(6) 諮問

輕便鐵道法又ハ軌道條例ニ依リ經營スル交通機關ニシテ其營業ヲ開始スルニ至リタルモノニハ左記各項ニ依リ縣費ヲ以テ補助セントス

- 一、補助歩合ハ出資額ニ對スル利益計算年五朱ニ滿タサルトキニハ其不足額又利益ナキトキハ出資額ニ對スル年五朱ニ相當スル額トス
- 一、補助期間ハ營業開始ノ年ヨリ起算シ五ヶ年以内トス
- 一、他ヨリ補助ヲ受クルモノハ第一項ノ補助歩合ヲ減額シ又ハ補助ヲ爲ササルコトアルヘシ

本件は縣下北陸官線又は中越鐵道の停車場所在地より起業するものに限リ、營業開始後五ヶ年間は提案の趣旨に準據し縣會の決議を經、補助するを適當と認むる旨を答申した。

(7) 議及(二件)

議及

(一) 明治四十三年度追加豫算に於て、復舊費に餘裕を生じた場合は、指定以外の河川海岸と雖も必要の工事を施すこと。(二) 各河川中川幅狭少又は屈曲せるものは、治水の必要に應じ、取擴又は改修の計畫を立つべきことを議及した。

特殊事項

全員委員會

(1) 全員委員會の開會

二月十七日縣會終了後、當局より諮問に係る輕便鐵道利子補給問題に付、全員委員會を開き、知事より詳細なる説明を試み、各議員よりは種々質問も出でしが、知事及び永井參與員より一々之に答ふる所あつて散會した。

(2) 議員の瀆職

議員の瀆職

本會の開會中に於て、議員藤田久信、島莊次、玉生道寧及び中屋靜二は、瀆職罪として拘引留置せらるゝこととなり、翌明治四十四年一月若しくは二月に等しく議員を辭し、同三月富山地方裁判所に於て、藤田は懲役十月、島は懲役五月、玉生は懲役三月(三年間刑の執行猶豫)に處せられ、中屋は無罪を言渡された。而して玉生は服罪したが、藤田、島は之を不服として控訴し、同年十月名古屋控訴院にて藤田は懲役十月、島は懲役八月に處せらるゝ。

ことゝなつた。其の後大正元年十月明治天皇御大葬の際、兩人は特赦の恩典に浴した。

七五、明治四十四年八月臨時縣會

開閉

本會は明治四十四年八月十四日開會、同月十九日閉會した。議長は根尾宗四郎、議員席次は前會に同じく、知事は濱田恒之助で、富直鐵道開通記念たる關西府縣聯合共進會開催の追加豫算を決議した。

議 件

議事件名

議事件名は明治四十四年度歳入歳出追加豫算 自明治四十四年度勸業費、中本縣主催關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法であつた。

議 決 摘 要

追加豫算

(1) 明治四十四年度歳入歳出追加豫算

戸	數	割	金四萬五千四百貳拾圓
歳入	經常部		

但郡市收入

町村戸數十一萬三千五百五十戸、戸數一戸ニ付四拾錢

家	屋	稅	金七千五百拾九圓
---	---	---	----------

但郡市收入

富山市家屋總坪數二十八萬二千六百五十三坪、此個數一億六百四十七萬五千五百四十九個、百個ニ付四厘六毛貳糸參忽此金四千九百貳拾貳圓參拾六錢五厘

高岡市家屋總坪數十七萬九千七百十坪、此個數六千九百四萬二千三百九十個、百個ニ付參厘七毛六糸壹忽此金貳千五百九拾六圓六拾八錢四厘

經常部合計金五萬貳千九百參拾九圓

歳入 臨時部

繰越 金 金七千四百九拾參圓

但郡市收入

歳入總計金六萬四百參拾貳圓

歳出 經常部

縣稅 取 扱 費 金貳百拾貳圓

第三篇 縣會史上

歲出臨時部

勸業費本年度支出額 金六萬貳百貳拾圓

歲出總計金六萬四百參拾貳圓

勸業費繼續方法

(2) 自明治四十四年度勸業費中本縣主催關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法
至明治四十六年度勸業費中本縣主催關西府縣聯合共進會費繼續年期及支出方法

一金貳拾七萬貳千百參拾五圓

總 豫 算 高

內 譯

金六萬貳百貳拾圓

明治四十四年度支出額

金拾五萬四千拾四圓

明治四十五年度支出額

金五萬七千九百壹圓

明治四十六年度支出額

一、本豫算は明治四十六年を以て本縣主催となり開設すべき聯合共進會費に充つるものである。

特 殊 事 項

共進會位置の大修正

共進會位置の大變更

本會は明年度に於て富直鐵道開通し、伏木築港完成するを以て、之を機會として本縣に於て關西府縣聯合共進會を明治四十六年に開催せんとする爲の開會であつた。原案は富山市若しくは其の附近を敷地とし、同市より大法寺裏及び鹿島町裏二ヶ所の内にて選定し、拾萬圓を寄附して、其の條件には跡地貳萬五千坪(八二五ヘクタール)乃至三萬坪の無償讓渡を請願したから、當局は鹿島町裏を適當と認め、第一會場を之に定め、第二會場たる水族館は沿海適當の地に地元より敷地を寄附せしむる計畫で、總額金參拾四萬五千參百六拾參圓を三ヶ年繼續にて支出せんとするものであつた。然るに其の後富山市に於ては、新に富山停車場裏を之に充てんとする意見擡頭し、市會に於ては甚だ忌まはしき事件を惹起し、また縣會に於ても激烈なる論戰が行はれた上、畢竟敷地を堀川村とし、新築の女子師範學校建物を會場を利用して、經費總額を金貳拾七萬貳千百參拾五圓三ヶ年繼續に減額し、富山市支出の拾萬圓を受けざることに決定した。

七六、明治四十四年十月臨時縣會

本會は明治四十四年十月九日開會、同月十三日閉會した。議員改選の結果、役員選舉の爲に開かれたもので、議員席次を定め、議長に吉田久兵衛當選し、知事は濱田恒之助であつ

開閉

議 件

議事件名は議員席次の抽籤 議長副議長の選舉 名譽職參事會員同補充員の選舉であつた。

議 決 摘 要

議員席次

- (1) 議員席次の抽籤
- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 一 番 川崎富次郎 | 二 番 濱松與三左衛門 | 三 番 金谷太次郎 |
| 四 番 久保次平 | 五 番 鎧塚哲文 | 六 番 吉田久兵衛 |
| 七 番 穴田仁七郎 | 八 番 有澤大助 | 九 番 淺田平三郎 |
| 十 番 齊藤宗平 | 十一番 高井源四郎 | 十二番 佐藤元五郎 |
| 十三番 布村吉太郎 | 十四番 脇坂靜之助 | 十五番 野島茄三郎 |
| 十六番 上田又一 | 十七番 西田源次郎 | 十八番 小池義範 |
| 十九番 石黒準太郎 | 二十番 高井文治 | 二十一番 堀 豊 |

議 員



安井文雄



沖田正近



布村吉太郎



川崎富次郎

議員



高井文治



小池義範



平井一見



有澤大助

- | | | | | | |
|------|---------|------|-------|------|------|
| 二十二番 | 能澤源作 | 二十三番 | 福井秀夫 | 二十四番 | 陸田捨一 |
| 二十五番 | 浅野長保 | 二十六番 | 増山政次郎 | 二十七番 | 平井一見 |
| 二十八番 | 坂井與次右衛門 | 二十九番 | 塚島藤吉 | 三十番 | 山田正年 |
| 三十一番 | 安井文雄 | | | | |

(異動) 十二番佐藤元五郎大正三年十月辭職、井上幸作同年十一月補缺。十九番石黒準太郎明治四十五年五月辭職、廣瀬平四郎大正元年八月補缺。三十番山田正年大正四年三月辭職、砂土居次郎同年五月補缺。

役員選舉

(2) 議長、副議長の選舉

十月十一日出席議員十六名、年長議員濱松二番假議長となりて、議長選舉を行ふ旨を告げ、野島十五番外二名の緊急動議に依り、川崎一番をして指名せしむることとなり、一番は吉田六番を指名選舉した。かくて當選議長の指名に依つて、副議長に野島十五番を選舉した。

特殊事項

(1) 議員の黨派別

兩派の分野
顛倒す

最初に於ける當選議員の分野は立憲國民黨十六名、政友會十四名、中立一名であつたが、其の後國民黨の石黒準太郎、小池義範の兩議員は自己の意見が政友派の主義方針に一致するとの理由を以て政友派に轉向したので、形勢顛倒し、政友は十六名、國民黨は中立の淺田平三郎一名を加へて十五名となり、相對峙して役員選舉を行ひ、未曾有の大混亂を呈して、役員は悉く政友に於て之を占めた。而して石黒議員は曾て明治三十二年の縣會に於ても籍を反對黨に移したことがあつた。

(2) 議長の再選舉

優勢であつた國民黨が議員二名を反對派に奪はれし報復として、議長選舉に於て意外の奇策を試みた。十月九日午後二時半開會式後、年長議員能澤二十二番(國民黨)は假議長として議長選舉を行ふ旨を宣告するや、川崎一番(政友)選舉立會人二名を假議長の指名に委せんと述べしに、假議長は陸田二十四番、坂井二十八番(孰れも國民黨)を指名した。議場頓に不穩となる。一番は先の發言を取消して先例に依り兩黨より一名宛を指名されたと述べし、二十四番は之を駁し、假議長は驕然たる議場を意に介せず、投票を強行して、山田正年十五票(國民黨)、吉田久兵衛十四票(政友)、無効二票なる旨を報告した。政友派議員は躍起となりて無効投票の再調査を叫んだが、山田正年は早くも議長席に着き大聲

兩度の議長選舉

を以て當選の披露を爲し、散會の旨を告げて同派議員一同と共に引上げた。されども政友派議員は何とて退場すべき、激昂して當局者に向ひ、この不法行爲を難詰した。永井參與員は審議の上解決すべき旨を述べて一同を退場せしめ、知事は投票の再調査を行つた。午後五時頃縣會に對し「府縣制第八十二條ニ依り議長選舉ヲ取消ス」との命令を發した。翌十日は政友派一同出席せず流會。十一日午後一時二十分第二號鈴にて國民黨議員入場せしに、政友派議員既に着席し、同派の年長者濱松與三左衛門議長となりて議事は進行し、吉田久兵衛議長として、其の傍に進み來つた。國民黨の能澤年長は直ちに議長席に着かんとし、同時に三人が議長席に落ち合ひて能澤は濱松に退場を迫り、濱松と吉田は之を拒み、今にも掴み合はんとする勢となつた。此の時永井石坂の兩參與員は入場したが、永井は此の状を見て直ちに退場し、石坂は齊藤高井の兩議員(國民黨)の間に答へて「正當なる會議と認めず。」といつたので、國民黨議員は退場し、政友派議員のみにて吉田議長の下に議事を終結した。かくして兩派とも元老以下總出にて知事に對し、國民黨は縣會議規則第二條に背き定例の第二號鈴を待たずして開會したものであるから取消すべきであると迫り、政友派は既に役員選舉を終りたるに付直ちに臨時縣會閉會式を擧ぐべきであると求め、知事は板挟みの苦境に陥つた。依つて同午後十一時三十分政友派議員は

議場に入り散會を告げ、十二日には知事も「昨日來貴下等に面會して時間を潰され調査及び熟考の迫もなければ早く決断は下し難し。」とて解決を下さず、午後三時國民黨議員十五名は議場に入り、能澤年長出席議員少數に付散會すと宣告した。十三日知事は兩派の元老等に向ひ妥協案を提出して、「兩派の議員更に悉く會して役員選舉を行はるゝに於ては去十一日の選舉を取消すべし。」といったが、國民黨は絶対に反對したから、知事は「然らば致方なし、断然十一日の選舉を正當と認むる。」とて午後四時二十分閉會式を行ひ、問題は茲に解決した。しかし國民黨は其の式には列せなかつた。

七七、明治四十四年十一月通常縣會

本會は明治四十四年十一月十五日開會、同十二月十四日閉會した。議長は吉田久兵衛、議員席次は前會に同じく、知事は濱田恒之助で、決議せし翌年度通常豫算總額は金百五十拾參萬九千貳百四拾六圓であつた。

開閉

議件

議事件名

議事件名は明治四十五年度歳入歳出豫算 同上特別會計歳入歳出豫算二十一件 至自

議



能澤源作



濱松與三左衛門

員



西田源次郎



佐藤元五郎

議 員



穴田 七郎



堀 豊



高井 源四郎



塚 健哲

明治四十五年度勤業費中工業試驗場新設費繼續年及支出方法 自明治四十五年度土木費
 明治四十六年度勤業費中工業試驗場新設費繼續年及支出方法 至明治四十七年度土木費
 繼續年及支出方法 縣稅賦課規則中改正 縣稅營業稅雜種稅課目課額中改正 縣稅
 不動產所得稅賦課規則(否決) 明治四十四年度歲入歲出追加預算 水害土木費支辨縣
 債借入及償還方法 明治四十三年度歲入歲出決算報告 建議六件であつた。

議 決 摘 要

(1) 明治四十五年度歲入歲出豫算

地 租	經 常 部	入
郡 收 入	金七拾七萬七千八拾八圓	
郡 收 入	金五萬六百貳拾圓	
郡 市 收 入	金七拾貳萬六千四百六拾八圓	
內		
但本年度宅地地租豫算高金拾九萬參千七拾圓(金四萬貳百六拾圓、富山市		
高岡市)地租壹圓二付市金拾九錢八厘此金七千九百七拾壹圓、町村金貳拾		
壹錢貳厘此金參萬貳千參百九拾六圓		

四十五年
度
豫算

其他ノ土地地租豫算高金百四拾萬七千七百參拾貳圓(金貳千四百八拾貳圓、富山市高岡市)、地租壹圓ニ付市金四拾八錢八厘九毛此金千貳百拾參圓、町村金五拾貳錢參厘四毛此金七拾參萬五千五百八圓

營業稅 金五萬七百七拾參圓

雜種稅 金拾五萬參千九百拾八圓

營業稅附加稅 金參萬九千四百八拾八圓

但國稅金參拾萬參千七百五拾圓ノ百分ノ十三

營業稅附加稅 金四百七圓

但國稅金參拾九萬五千九百九拾壹圓ノ百分ノ四

所得稅附加稅 金壹萬五千八百四拾圓

但國稅金參拾九萬五千九百九拾壹圓ノ百分ノ四

賣藥營業稅附加稅 金八百八拾五圓

但國稅金貳萬九千五百貳拾四圓ノ百分ノ三

戶數割 金貳拾貳萬九拾九圓

金貳拾貳萬九拾九圓

內郡 郡收 金壹萬四千五百貳拾貳圓

內市 市收 金貳拾萬五千五百七拾七圓

但本年度總戶數十一萬三千四百五十三戶戶數一戶ニ付町村金壹圓九拾四

家屋 錢稅 金參萬四千八百九圓

富山市家屋總坪數二十九萬九千五百四十九坪此個數一億千二百十萬二千二百二十個、百個ニ付貳錢此金貳萬貳千四百貳拾圓高岡市家屋總坪數十八萬二千二百七十六坪、此個數七千二百八十七萬六千八百十五個、百個ニ付壹錢七厘此金壹萬貳千參百八拾九

財產收 金七百五拾五圓

內郡 郡收 金壹圓

內市 市收 金七百五拾四圓

國庫下渡金 金參萬貳千八百貳拾六圓

河川收 金千參百八拾貳圓

雜收 金拾貳萬參千七百拾圓

內 郡 收 入 金百八拾六圓
 內 郡 市 收 入 金拾貳萬參千五百貳拾四圓
 經常部合計金百四拾五萬千九百八拾圓

內 郡 收 入 金六萬五千參百貳拾九圓
 內 郡 市 收 入 金百參拾八萬六千六百五拾壹圓

線 越 臨 時 部 金參萬五千七百八拾五圓
 內 郡 收 入 金千百貳拾九圓

內 郡 市 收 入 金參萬四千六百五拾六圓
 國 庫 補 助 金 金參萬五千六百九拾九圓

財 產 賣 却 代 金 金八拾貳圓
 內 郡 收 入 金壹圓

內 郡 市 收 入 金八拾壹圓
 公 債 證 書 償 還 金 金百圓

寄 附 金 金壹萬五千六百圓

議 員



門衛右次與井坂



陸田捨一



塚島藤吉



山田正年

員 議



夫 秀 井 福



郎 三 平 田 淺

臨時部合計金八萬七千貳百六拾六圓

內 郡 收 入 金千百參拾圓

內 郡 市 收 入 金八萬六千百參拾六圓

歲入總計金百五拾參萬九千貳百四拾六圓

內 郡 收 入 金六萬六千四百五拾九圓

內 郡 市 收 入 金百四拾七萬貳千七百八拾七圓

歲 出 經 常 部

警 察 費 金拾九萬千貳百貳圓

警 察 廳 舍 修 繕 費 金五千百五拾五圓

土 木 費 金拾五萬八千四百四拾九圓

縣 會 議 諸 費 金壹萬貳千貳百參拾八圓

衛 生 及 檢 徵 費 金壹萬四千七百貳拾四圓

教 育 費 金貳拾貳萬九千九百六圓

郡 廳 舍 修 繕 費 金千貳百九拾八圓

郡役所費	金六萬貳千八百五圓
救育費	金四百六圓
諸達書及揭示諸費	金千參百六拾九圓
勸業費	金拾四萬七千六百六拾九圓
縣稅取扱費	金參萬八百貳拾八圓六拾六錢
縣廳舍修繕費	金千參百拾參圓
衆議院議員選舉費	金貳百圓
縣吏員費	金五萬六百八拾貳圓
縣會議員選舉費	金百圓
行政執行費	金五拾圓
財產費	金參百貳拾九圓
收用審查會費	金八拾參圓
統計費	金九百七拾八圓
神社費	金百八拾圓
地方改良費	金千四百圓

豫備費

內 郡負擔	金壹萬圓
內 郡市負擔	金千圓
內 郡負擔	金九千圓

經常部合計金九拾貳萬千參百六拾四圓六拾六錢

內 郡市負擔	金六萬五千百參圓
內 郡負擔	金八拾五萬六千貳百六拾壹圓六拾六錢
臨時部	

警察廳舍建築費	金五百八拾貳圓
土木費	金四萬千貳百四拾圓
郡市町村土木補助費	金參萬貳千貳百四拾五圓
市町村傳染病豫防補助費	金千六百四拾九圓
教育費	金七千五百貳拾壹圓
教育補助費	金壹萬四千七百貳拾八圓
勸業補助費	金百八拾八圓
勸業補助費	金四萬四千百圓

郡 廳 舍 建 築 費	金千參百五拾六圓
縣 債 費	金拾貳萬七千九百七拾六圓
衛 生 補 助 費	金七百九拾六圓
慈 惠 事 業 補 助 費	金五百圓
小 學 校 教 員 恩 給 金 補 充 費	金壹萬貳千五百七拾四圓
市 町 村 教 育 補 助 費	金貳千圓
勸 業 費 本 年 度 支 出 額	金拾八萬七千參百貳拾四圓參拾四錢
土 木 費 本 年 度 支 出 額	金參萬參千八百五拾貳圓
教 育 費 本 年 度 支 出 額	金八萬八千五拾圓
感 化 院 補 助 費	金參千七百圓
輕 便 鐵 道 補 助 費	金貳千五百圓
公 園 新 設 費	金壹萬五千圓
臨 時 部 合 計 金 六 拾 壹 萬 七 千 八 百 八 拾 壹 圓 參 拾 四 錢	
內 郡 負 擔	金千參百五拾六圓
內 郡 市 負 擔	金六拾壹萬六千五百貳拾五圓參拾四錢

特別會計豫算

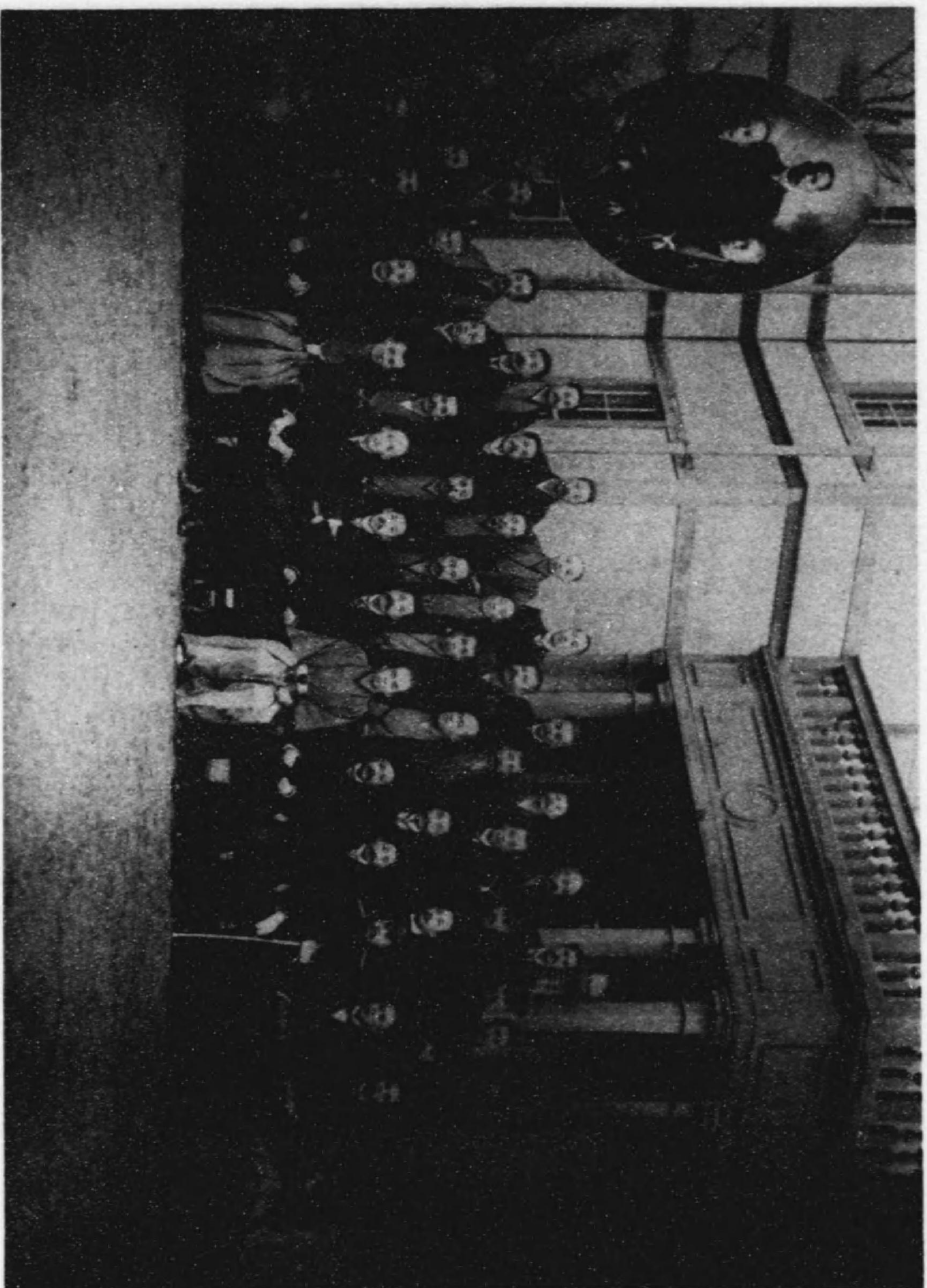
歲出總計金百五拾參萬九千貳百四拾六圓		
內 郡 負 擔	金六萬六千四百五拾九圓	
內 郡 市 負 擔	金百四拾七萬貳千七百八拾七圓	
(2) 明治四十五年度特別會計歲入歲出豫算(二十一件)		
罹 災 救 助 基 金	金拾萬六千七拾六圓	入
慈 惠 救 濟 資 金	金千參百四拾六圓	同
水 災 基 金	金參百九圓	同
衛 生 基 金	金百四拾參圓	同
教 育 資 金	金參萬七千參百拾壹圓	同
市 町 村 立 小 學 校 教 員 加 俸 資 金	金六萬五千八百拾四圓	同
小 學 校 教 員 恩 給 基 金	金貳千九百九拾九圓	同
小 學 校 教 員 恩 給 金	金壹萬六千七拾貳圓	同
縣 立 藥 學 專 門 學 校 基 本 財 產	金百貳拾圓	同
富 山 縣 師 範 學 校 基 本 財 產	金參百參拾五圓	同
歲入ニ同ジ		出

第三章 縣會議事(明治年代)

九九八

縣立富山中學校基本財產	金參百七拾圓	同
縣立高岡中學校基本財產	金貳百八拾貳圓	同
縣立魚津中學校基本財產	金百九拾參圓	同
縣立礪波中學校基本財產	金百貳拾八圓	同
縣立富山高等女學校基本財產	金貳百八拾六圓	同
縣立高岡高等女學校基本財產	金百八拾八圓	同
縣立工藝學校基本財產	金貳千四百四拾圓	同
縣立農學校基本財產	金八百九拾五圓	同
縣立蠶業學校基本財產	金七百九拾八圓	同
縣立商船學校基本財產	金四拾九圓	同
水產講習所基金	金四千圓	同
(3) 自明治四十五年度勸業費中工業試驗場新設費繼續年期及支出方法 至明治四十六年度		同
內譯	一金四萬八千四百四拾四圓	總豫算高
	金壹萬八千五百參拾九圓	明治四十五年度支出額

勸業費繼續方法



員議會縣 月九年四十四治明自 月九年四正大至

土木費繼續
方法

金貳萬九千六百五圓

明治四十六年度支出額

(4) 自明治四十五年度至明治四十六年度土木費繼續年期及支出方法

一金九千六百圓

總 算 高

內 譯

金四千五百圓

明治四十五年度支出額

金五千圓

明治四十六年度支出額

一、本表の内容は河川臺帳調製費金六千六百圓、測量費金參千圓である。

(5) 明治四十四年度歳入歳出追加豫算

追加豫算

歳 入 經 常 部

地 租 割 金拾九萬九千九百四拾六圓

但郡市收入

本年度宅地地租豫算高金貳拾壹萬六千參百九拾四圓、地租壹圓ニ付金五錢四厘參糸
壹忽此金壹萬壹千六百九拾壹圓九拾八錢四厘
本年度其他ノ土地地租豫算高金百四拾壹萬五千四百四拾圓、地租壹圓ニ付金拾參錢
參厘此金拾八萬八千貳百五拾參圓五拾貳錢

賣藥營業稅附加稅 金四百四拾參圓

經常部合計金貳拾萬參百八拾九圓

歲入 臨時部

繰越 金 金參千四百參拾九圓

但郡市收入

縣債 金拾五萬圓

臨時部合計金拾五萬參千四百參拾九圓

歲入總計金參拾五萬參千八百貳拾八圓

歲出 經常部

土木費 金參萬參千六百貳拾五圓

縣稅取扱費 金拾八圓

經常部合計金參萬參千六百四拾參圓

歲出 臨時部

土木費 金貳拾八萬六千九百五拾貳圓

郡市町村及組合土木補助費 金參萬千參百五拾八圓

縣債借入等
方法

縣債 費 金貳千圓

臨時部合計金參拾貳萬百八拾五圓

歲出總計金參拾五萬參千八百貳拾八圓

(6) 縣債借入及償還方法

一、支辨 明治四十四年度に於ける水害土木費

一、起債額 金拾五萬圓

一、借入 明治四十四年度に於て罹災救助基金

一、利率 年五分以内

一、償還 元金償還は明治四十四年度乃至明治四十六年度の三ヶ年間据置明治

四十七年度乃至明治五十年度の四ヶ年間

利子支拂は會計年度末日

(7) 建議(六件)

- 内務大臣へ對して神通川河身改修の件。知事へ對して、(一)中新川郡役所移轉の件、
- (二)賃取橋買上及び道路幅員取擴の件、(三)災害復舊工事施行及び川幅整理の意見書、(四)
- 實業教育機關整理の件、(五)明治三十七年縣令第五十三號改正の件を建議した。

建議

特殊事項

當局攻撃の撤回

十二月十四日の最終に於て川崎一番(政友)等より「縣政刷新に關する建議」を提出し、一番は之を敷衍して、富山縣の行政は吏員の任命宜しきを得ず、殊に勸業、教育、土木の三大事業は縣民の膏血を絞りにて多額の經費を支出し居るに拘はらず、一も見るべきものがない。故に此の場合に於て大に縣政の刷新を望まねばならぬと、當局の無能を攻撃した。之を聞いた濱田知事の顔色は忽ち變り、參與員席は俄かに動搖めき渡つた。高井十一番(國民)は之に反對し、該建議は縣政紊亂せりといふ意か、將又當局の爲す處一も見るべきものなしとの意か、苟も議員として縣政に不備あらば其の事實を指摘して刷新を迫るべきであるに、さにあらず斯かる茫漠たる建議に賛することは斷じて出來ないと叫んだ。風雲甚だ急、議長は忽ち休憩を命じた。時に午後十一時十分、二十分を経て開會、石黒十九番(政友)は一番に對し、該建議は趣旨に於て尤もなるも、字句に於て修正を要する處あれば撤回せられては如何と述べ、一番はその勸告に従ふ旨を述べて危く無事に落着した。

昭和十二年八月一日印刷
昭和十二年八月五日發行

著作兼
發行者

富山縣

富山市鐵炮町七番地

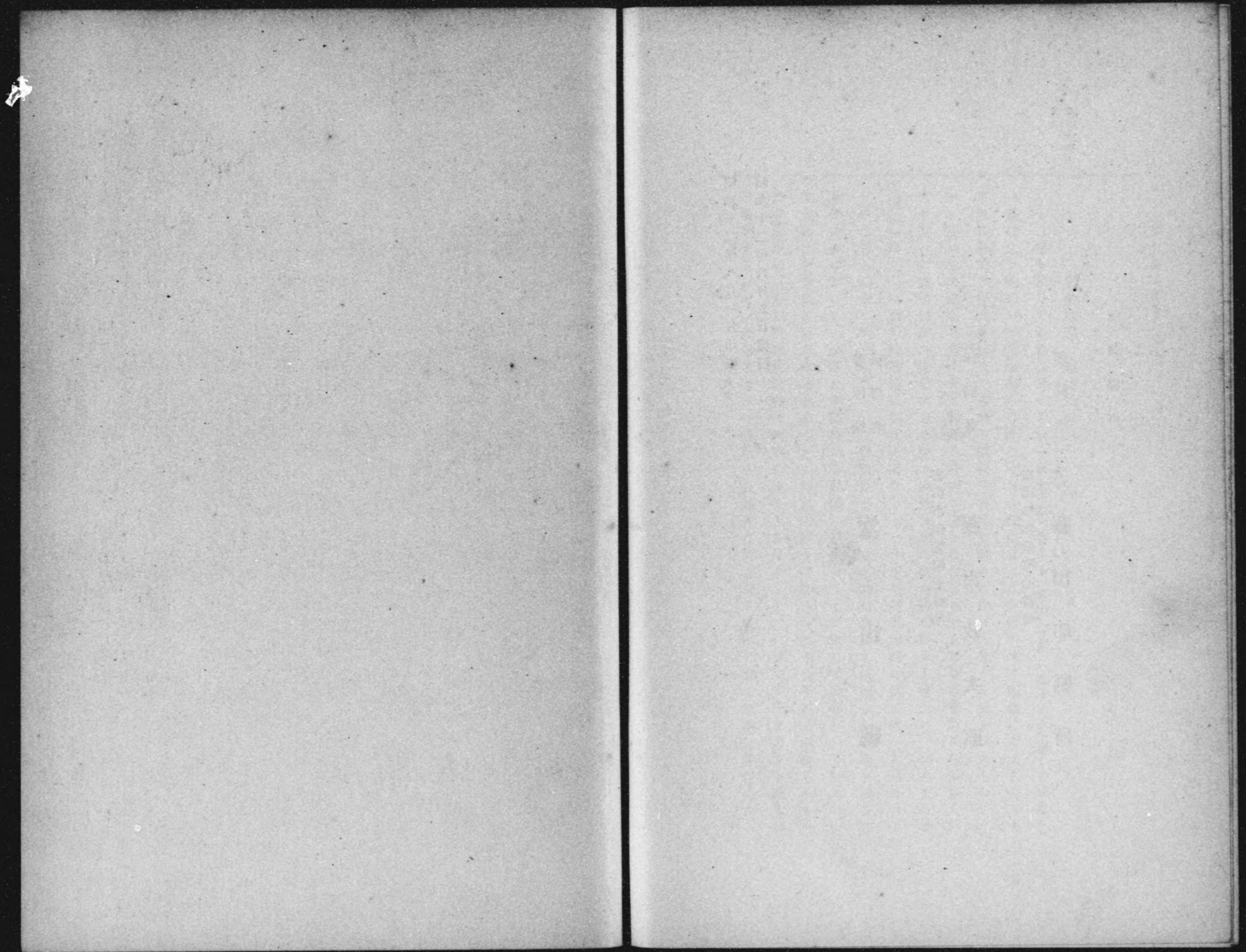
印刷者

藤田政次郎

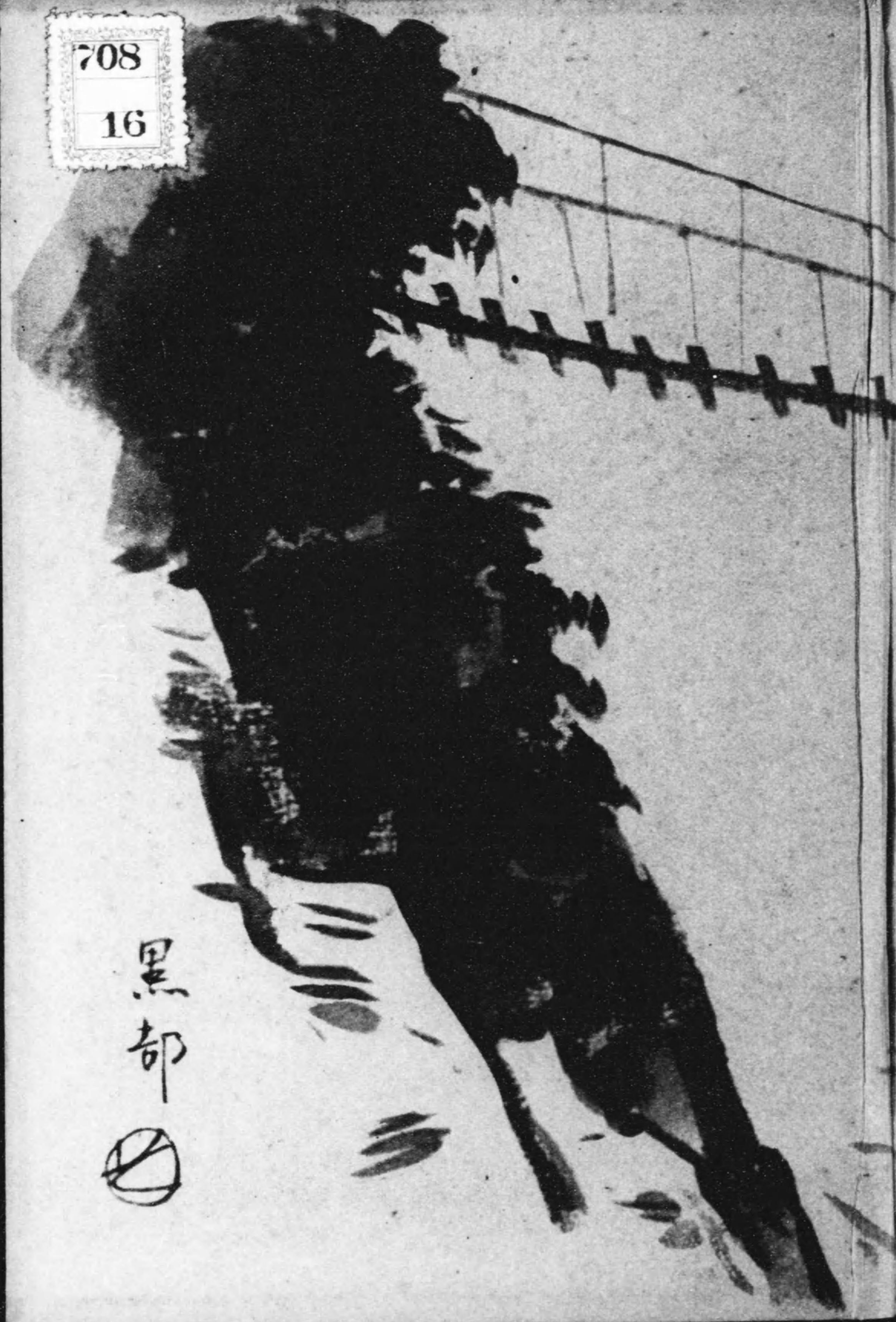
富山市鐵炮町七番地

印刷所

藤田印刷所



708
16



黒部

